安息日聖書教科

使徒行伝
からの教訓（1）

Vol. 97 No.2
2021年4月-6月

目次

1. 群衆のためのメッセージ 5
2. 主人に用いられるための器 10
3. ペンテコステにおける力 15
4. 悔い改めから生じる喜び 20
5. 神のみを恐れる 26
6. 真の無我 31
7. 授けられた大胆さ 36
8. さらに大きな効果力を得る 41
9. サマリヤへと進む 46
10. サウロの明け渡し 52
11. 外にいる「世俗的な人々」のための希望 57
12. 正しさが立証された神の真理 62
13. わたしたちの快適な領域を越えて 67

安息日聖書教科は、他のコメントをいっさい加えず、完全に聖書と証の書のみに基づいた毎日の研究プログラムです。引用文は、簡潔で直接的な見解を提供するために、可能なかぎり短くされています。ある部分では、明瞭さや、適切な前後関係、また読みやすさのために〔　〕の括弧が使われています。抜粋されている原文をさらに研究することをぜひともお勧めします。

セブンスデーアドベンチスト改革運動世界総会安息日学校部(P.O.Box 7240 Roanoke,Virginia 24019-0240,U.S.A)

安息日聖書教科 Vol.97,No.2

編集＆発行：
ＳＤＡ改革運動日本ミッション

〒368－0071
埼玉県秩父郡横瀬町芦ケ久保1607－1

TEL：(0494) 22-0465

URL：
http//www.4angels.jp

E-mail:
sdarm.shomaru@gmail.com

イラスト：Sermon View on the front cover; 123RF on pp. 4, 25, 72; Map Resources on pp. 51, 72.
.

Printed in Japan

まえがき

これから6か月間、世界中の安息日学校の生徒は、使徒行伝からの教訓を研究し、神のみ言葉によって活動へ引き上げられ、活力を与えられることでしょう。

クリスチャン信徒たちにとって、自分たちの主の十字架に続いた甚大な失望として始まったことは、劇的に変化しました。「自分たちの主の死後、〔キリストの弟子たちは〕無力で、失望し、勇気を失った群れであり、まさに羊飼いをなくした羊のようであった。しかし、今や、彼らは真理のための証人として、武器ではなく、ただみ言葉と神の御霊をもって出ていき、あらゆる反対に打ち勝つのであった。」(牧師への証 66, 67)

「わたしたちはより深い敬神と偉大な教師なるお方の誠心な柔和を必要としている。…わたしは…使徒行伝全体がわたしたちの教科書であることを、…教えられた。わたしたちはみな個人個人が自分の心をへりくだらせ、日ごとに改心する必要がある。」(SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6巻 1055)

「神への熱心が弟子たちを動かし、強い力をもって真理のための証を担った。この熱心が、キリスト、しかも十字架につけられたキリストの贖いの愛の物語を告げるという決意をもって、わたしたちの心に火をつけるべきではないだろうか。」(教会への証 8巻 22)

「道徳的な闇が、死のとばりのように、地を覆っている。あらゆる形態の偽りの教理、異端、そして悪魔的な欺瞞が、人々の思いを誤り導いている。神の御霊と力がなければ、真理を提示するために、わたしたちが労しても無駄である。

わたしたちがキリストを世に提示する資格を得るのは、キリストを熟考し、このお方を信じる信仰を働かせ、自らこのお方の救いの恵みを経験することによってである。もしわたしたちがイエスから学んできたのであれば、このお方がわたしたちの主題となる。このお方の愛がわたしたちの心の祭壇の上で燃え、人々の心に届くのである。真理が、冷たくいのちのない理論としてではなく、御霊の表れとして提示される。」(同上 5巻 158)

「キリストがご自分の代表者として聖霊を送るという別れの約束は、時がたっても変わりはない。御霊の恵みが豊かに地上の民に注がれないのは、神が制限しておられるからではない。もし約束の実現が見られないとすれば、それは約束が理解されていないからである。」(患難から栄光へ上巻 46)

「わたしたちが受ける聖霊の度合いは、わたしたちがそれを求める願いと信仰、そして光と知識が与えられたときにわたしたちが用いる度合いに比例している。わたしたちは自分たちの受ける容量とそれを人に与える能力に従って、聖霊をゆだねられるのである。」(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1896年5月5日)

「罪のうちに滅びつつある世界は、明るくされなければならない。失われた真珠が見いだされなければならない。失われた羊は安全に囲いに連れ戻されなければならない。だれがこの捜索に加わるだろうか。だれが誤謬の闇にさまよっている人々に光を担うだろうか。」(同上 1895年7月23日)

世界総会安息日学校支部

安息日 2021 年 4 月 3 日

第一安息日献金

スペイン語の讃美歌集のために

親愛なる兄弟姉妹、世界中の友人がたへ

音楽は創造主と被造物が会う場所―交わりの時、そこで創造された者が偉大なる創造主に自分たちの敬愛と礼拝を表現できるところ―となるために、神のみ心のうちに生まれました。詩篇記者は次のように宣言しています。「主にむかって歌い、そのみ名をほめよ。日ごとにその救を宣べ伝えよ。もろもろの国の中にその栄光をあらわし、もろもろの民の中にそのくすしきみわざをあらわせ。… もろもろの民のやからよ、主に帰せよ、栄光と力とを主に帰せよ。そのみ名にふさわしい栄光を主に帰せよ。供え物を携えてその大庭にきたれ。聖なる装いをして主を拝め、全地よ、そのみ前におののけ。」(詩篇 96:2, 3, 7-9)

「音楽は、天の宮廷の神の礼拝の一部になっている。であるから、われわれはできるかぎり、天の合唱隊と調和した声で、賛美の歌をうたうように努力しなければならない。…歌は、祈りが礼拝の行為であるのと同様に、宗教的礼拝の一部である。」(人類のあけぼの下巻 257)

音楽は学びを容易にすることができます。そして「それは心に霊的な真理を印象づける最も効果的な方法の一つである。」(信仰によってわたしは生きる 273)

礼拝、教育、伝道の観点から、よい音楽の重要性を心にとめるとき、わたしたちは改革者家族の皆さんに、スペイン語の最初の公式な讃美歌集を持つべき緊急な必要性を提起いたします。スペイン語を公用語としている国は 21 か国あり、およそ世界中で 5 億 27 百万 -5 億 8 千万の人がスペイン語を話し、大部分が母国語としていると推定されています。

このスペイン語の讃美歌集を準備する工程には、消耗するような翻訳作業、合法的な著作権問題、讃美歌の再調整といった技術的な働き、新転調への移行作業、音符と文字のあわせ作業、ソフトウェアへの編集作業が含まれています。

これはコストのかかる事業であるため、すべての安息日学校の生徒の皆さんに、まもなくわたしたちの神への礼拝にふさわしい公式な讃美歌集を持つことができるようにこの事業においてわたしたちを助けて下さるようにお願いいたします。

主がこの事業に惜しみなく捧げて下さる皆さんに豊かに報いてくださいますよう、お祈りいたします。また皆さんの援助と惜しみない献金にあらかじめお礼申し上げます。

南アメリカ地域から皆さんの兄弟姉妹方より

群衆のためのメッセージ

「その時ヤコブの残れる者は多くの民の中にあること、人によらず、また人の子らを待たずに、主からくだる露のごとく、青草の上に降る夕立ちのようである。」（ミカ 5:7）

「神と調和している心は、天の平和の共有者である。そして周囲のすべての者に、その祝福された感化を及ぼすのである。平和の精神は、世の争いに疲れ、悩む人々の心に、露のようにとどまる。」（祝福の山 34）

参考文献：　教会への証 6 巻 9–22

日曜日　*3 月 28 日*

1.　祝福となるように召される

a.　神を受け入れるわずかな人々のために、何がいつも神のご目的でしたか（ミカ 5:7）。

「神はイスラエルをえらばれたのだった。神は人々の間に、神の律法について、また救い主をさし示している象徴と預言とについて知識を残すために、イスラエルを召されたのだった。神は、イスラエルが世に対して救いの井戸となるように望まれた。アブラハムがその滞在した土地で、ヨセフがエジプトで、ダニエルがバビロンの宮廷でそれぞれ果した役割を、ヘブル人は諸国民の中で果すのであった。彼らは人々に神をあらわすのであった。」（各時代の希望上巻 14, 15）

b.　キリストは、どのようにヘブル国家がご自分のご計画において失敗した方法を描写なさいましたか。またわたしたちはそこからどの警告を受けるべきですか（ルカ 20:9–18）。

「わたしたちは、昔のイスラエルと同じ運命に陥ることがないように気をつける必要がある。彼らの不従順と破滅の歴史は、わたしたちを教えるために記録された。わたしたちが彼らのようにすることを避けることができるためである。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1900 年 7 月 10 日）

2. 選ばれた者たちの資質

a. わたしたちは特に昔のイスラエルが陥った特別なわなに関して、何を学ぶべきですか（箴言 11:2; 29:23）。

「偶像礼拝者たちが怒って真理を滅ぼそうとしたとき、主はご自分のしもべを王たちや統治者たちに面会させ、彼らとその民が光を受けるようにされた。最も偉大な君主たちが、ヘブル人の捕虜たちがおがんでいる神の主権を宣言させられたことがたびたびあった。

イスラエル人は、バビロンにとらわれの身となったことによって、きざんだ像の礼拝が効果的になおった。その後何百年もの間、彼らは異教の敵の圧迫に苦しんだために、自分たちの繁栄は神の律法に従うことにかかっていることを固く確信するようになった。しかし民の多くは、愛にうながされて服従したのではなかった。その動機は利己的であった。彼らは国家的な偉大さに到達するための手段として、神に外面的な奉仕をささげた。彼らは世の光とならないで、偶像礼拝の誘惑からのがれるために世から離れた。モーセを通して与えられた教えの中で、神はイスラエル人が偶像礼拝者とまじわることを制限されたが、この教えはまちがって解釈されていた。それはイスラエル人が異教徒の習慣に従わないようにするためであった。ところがこの教えは、イスラエル人と他国民との間をへだてる壁をつくりあげるために用いられた。ユダヤ人はエルサレムを彼らの天とみなし、神が異邦人に恵みを示されはしないかと実際に嫉妬した。」（各時代の希望上巻 16, 17）

b. 神の召しを受け入れる際に必要とされている精神の謙遜と厳粛さを描写しなさい（マタイ 11:28–30）。

「ユダヤの指導者たちは、教えを必要としないほど賢く、救いを必要としないほど正しく、キリストから来る名誉を必要としないほど高くあがめられていると思っていた。救い主は、彼らが誤用していた特権と、彼らが軽視していた仕事を他の人々にゆだねるために、彼らに背を向けられた。神の栄光が現わされ、神のみことばは確立されなければならない。キリストの国はこの世界に建設されなければならない。神の救いは、荒野にある町々に知らされなければならない。こうして弟子たちは、ユダヤの指導者がなしとげることのできなかった仕事をなしとげるために召されたのである。」（患難から栄光へ上巻 8）

3. はっきり区別された任務

a. 何がこの地上における神の子らの目的ですか。また、わたしたちはそれをどこで成し遂げ始めますか（マタイ 5:14–16）。

「同じように、キリストの働き人のひとりびとりは、自分のいるところから働きを始めるのである。われわれ自身の家族の中には、同情にかわき、生命のパンに飢えた魂がいるかもしれない。キリストのために教育すべき子供たちがいるかもしれない。われわれ自身の門口に異邦人がいる。一番近くにある働きを忠実にしよう。それから、われわれの努力を神のみ手がみちびかれるままに遠くへひろげよう。多くの人々の働きは環境に制限されているようにみえるかもしれない。しかしどこであろうと忠実に、勤勉に働くならば、それは地の隅々にまで知られるのである。」（各時代の希望下巻 369）

b. 自分の動機や人生の優先順位を、再度吟味するために、何がわたしたちをわれに返らせるべきですか（コリント第一 9:16; コリント第二 10:16–18）。

「全世界に出て行けとの命令をみすごしてはならない（マルコ 16:15 参照）。われわれの目をかなたの国々に向けるようにと訴えられている。キリストはへだての壁すなわち国籍というへだての偏見を打破し、全人類家族への愛を教えておられる。主は、人間の利己心が定めたせまい社会から人々を高められる。主は、地域的な境界線と人間のつくった社会的な差別を廃止される。キリストは隣人と他人、友人と敵の区別をされない。困っている魂をみな兄弟とみなし、世界を働き場とみなすようにと、主は教えておられる。」（同上 370）

「わたしたちの施設がすでに建っているところを…拡張したり、追加して建てる代わりに、必要を制限すべきである。真理を表し、『向こう側の地域』へ警告のメッセージを伝えるために、資金と働き人を点在させようではないか。」（教会への証 8 巻 50）

「あなたがたは会計報告を出さなければならない金銭―神の金銭―を割り当てる際に自分の傾向を満足させてきたが、その一方で伝道の働きは妨げられ、警告のメッセージを一度も聞いたことがない人々のいる場所に真理の旗印を立てるべき資金と働き人の欠乏によって束縛されてきた。」（同上 51）

「だれが快適な家と愛しい関係のきずなを後にして、尊い真理の光を遠く離れた場所にまで伝えに行くだろうか。」（同上 54）

4. 力の秘訣

a. 預言者ゼカリヤに与えられたこの地上における神のみ働きを描写している幻の重要性を説明しなさい（ゼカリヤ 4:1–3）。

「福音という救う真理を人々の前に提示するために成し遂げられるべき大きな働きがある。これこそ道徳的な堕落の潮をせき止めるために神によって定められた手段である。これこそ、このお方の道徳的なみかたちを人の中に回復させるこのお方の手段である。これは全世界的な無組織の治療法である。…

神のみ言葉の中にあらわされた過去のあらゆる光、現代と将来にまで輝き出ている光は、それを受け入れようとするすべての魂のためである。この光の栄光、すなわちキリストのご品性という栄光そのものは、個人個人のクリスチャンのうちに、家族のうちに、教会のうちに、み言葉の働きのうちに、そして神の民によって設立されたすべての施設のうちにあらわされなければならない。これらすべてを、主は世のために何をなし得るかの象徴にしようと計画しておられる。それらは福音という真理の救う力の型となるべきである。それらは人類のための神の偉大な目的の成就における代理人である。

神の民は宇宙における最高の感化力の働きが完成する管となるべきである。ゼカリヤの幻の中で、神のみ前に立つ二本のオリブの木は、そこから金の管を通って聖所の器の中に金の油を出しているものとして象徴されている。ここから聖所のともし火は供給され、絶えず明るく光を輝かせることができるようにしていた。同じように神のみ前に立つ油注がれた者たちから、満ち満ちた神聖な光と愛と力が、神の民に与えられ、彼らが他の人々に光と喜びと活気づけを与えることができるようにするのである。彼らは神聖な器が神の愛の潮を世に伝達できる管となるべきである。」（教会への証 6 巻 11, 12）

b. 世を明るくする任務のためにエネルギーを与える「電池」は何ですか（ゼカリヤ 4:6）。

「魂が改心することができる道を備えることにおいて、わたしたちが自覚するよりはるかに多くのことが天の宇宙によってなされている。わたしたたちは天の使命者たちと調和して働かなければならない。わたしたちはもっと神を必要としている。わたしたちは、自分たちの話や説教が働きをなすことができると感じるべきではない。神を通して人々に伝わるのでない限り、それらは決して伝わらないのである。」（同上 50）

木曜日 *4月1日*

5.　　心が輝く

a.　この時代のわたしたちの最大の必要を説明しなさい（ヨハネ 1:12, 13; 3:5–8; 4:14）。

「同胞の働き人たちよ、わたしたちにはイエスがいてくださらなければならない。もしこのお方を人々に提示するために集まり成功したいのであれば、尊いイエスが、わたしたちの心の中にもっと十分に宿っておられなければならない。わたしたちは、自分たちの働きに力と効果をもたらすために、天の感化力、神の聖霊を大いに必要としている。わたしたちはキリストに心を開く必要がある。もっと堅固な信仰ともっと熱烈な献身が必要である。わたしたちは自己に死に、そして思いと心にわたしたちの救い主への敬愛する愛を抱く必要がある。わたしたちが一心に主を求めるとき、このお方を見いだす。そしてわたしたちの心全体がこのお方の愛で輝く。自己は無価値なものとなって沈み、イエスが魂にとってすべてのすべてになるのである。」（教会への証 6 巻 51）

「真に改心した魂は高いところから照らされ、そしてキリストがその魂のうちで『泉となり、永遠の命に至る水が、わきあがる』。その人の言葉、動機、行動は誤解され、偽って伝えられるかもしれない。しかし、その人はもっと大きな関心時が危機に瀕しているので、それを気にしない。彼は現在の便利さを考えない。彼は誇示しようと躍起にならない。人の賞賛をほしがらない。彼の希望は天にあり、自分の目をイエスに留めて、まっすぐ進み続ける。彼は正しいことを正しいがゆえに、また正しいことを行う者だけが神の御国へ入るがゆえに行う。彼は親切で謙遜であり、他の人の幸福を思いやる。彼は『わたしは兄弟の番人でしょうか』とは決して言わない。かえって、彼は自分の隣人を自分自身のように愛するのである。彼の方法は独断的ではない。」（同上 5 巻 569）

金曜日 *4月2日*

個人的な復習問題

1.　わたしには人に及ぼす感化力はないと考えるよう誘惑されるとき、何を悟らなければなりませんか。
2.　どのような鍵となる特徴が、キリスとのためのわたしの証をさらに効果的なものとしますか。
3.　神の御目には、何が神の民のための最大の優先事項となるべきですか。
4.　あふれる油についてのゼカリヤの幻は、わたしにどのように影響しますか。
5.　真に改心したクリスチャンを述べなさい。

主人に用いられるための器

「もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。わたしは父にお願いしよう。そうすれば、父は別に助け主を送って、いつまでもあなたがたと共におらせて下さるであろう。」（ヨハネ 14:15, 16）

「助け主（慰め主）は、キリストとの事柄を取り上げて、それらをわたしたちに示すことができるために、すなわち、キリストのくちびるから出るみ言葉をその豊かな保証のうちに生きた力をもって、従順で自己を空にする魂に与えるためである。」（ｻｲﾝｽﾞ・ｵﾌﾞ・ｻﾞ・ﾀｲﾑｽﾞ 1908 年７月 15 日）

参考文献：　ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 141–145

日曜日　*4月4日*

1.　すばらしい約束

a.　十字架の前夜にイエスが与えてくださった尊い約束を述べなさい。そして、どのようにしてのみ、わたしたちはそれを受け、それによって祝福を受けることができますか（ヨハネ 14:15–17, 23）。

「祈りは、義務を行なうことの代わりにはならない。キリストは言われる。『もしあなたがたがわたしを愛するならば、わたしのいましめを守るべきである。』……祈りのときに、こうした条件に従わないでいて、神の約束が果たされることを求める者は、エホバを侮辱する者である。」（キリストの実物教訓 120）

「わたしたちは、品性のすべての局面において、キリストを表すべきである。

何が聖書にある品性の試金石であろうか。〔ヨハネ 14:23 引用〕。」（医事伝道 46）

「〔ヨハネ 14:23 引用〕。わたしたちは、強く完全な神の意志に心を引きつけられてしまう。それは、わたしたちが、尽きない能力の源と生きたつながりを持つからである。わたしたちの信仰生活は、イエス・キリストに全く捕えられてしまう。もはや、ありきたりの利己的生活は送らなくなり、キリストがわたしたちの内に住んでくださる。イエスの品性がわたしたちの中に再現される。このようにして、わたしたちは、聖霊の実を結ぶ。」（キリストの実物教訓 40）

2. 行動の書

a. 愛する医者であったルカは、自分の名を持つ聖書の書簡の続きとして、どのように使徒行伝を始めていますか（ルカ 24:50–53; 使徒行伝 1:1–3）。

b. イエスに尋ねた最後の質問の中で、弟子たちがもっとも案じていたことは何でしたか。またわたしたちに、どの類似した関心事が共通していますか（使徒行伝 1:6）。このお方の応答から、わたしたちは何を学ぶべきか説明しなさい（使徒行伝 1:7; ヨハネ 9:4）。

「神は〔第三天使の〕メッセージが閉じる時、あるいは恩恵期間が終わる時について、わたしたちに表してはこられなかった。わたしたちに表された事柄はわたしたちやその子供たちのために受け入れる。しかし、全能者の会議で秘してこられた事柄を知ろうするのはやめようではないか。見張り、働き、待ち、滅びようとしている魂のために毎瞬間労するのがわたしたちの義務である。わたしたちはイエスのみ足の跡を歩み続け、このお方の分野で働き、このお方の賜物を多様な神の恵みの良き管理人として分配し続けるべきである。サタンは、この時代のためのすばらしい真理を無効にするために、毎日イエスから学んでいない者に、自分自身が作りだした特別なメッセージを提示する用意ができている。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1894 年 10 月 9 日）

「何度も何度も、時を定めることに関して警告を受けた。時を土台としたメッセージがふたたび神の民に与えられることは決してない。私たちは聖霊の降下についても、キリストの再臨についても、確定した時を知ることはないのである。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 252）

「わたしたちはこの地上歴史の終末時代に生存している。預言は急速に成就しつつある。恩恵期間の時は急速に過ぎ去っている。わたしたちに失うべき時間は、一瞬たりともない。見張りながら居眠りをしているところを見出されないようにしよう。だれ一人心のうちにあるいは行いによって、『わたしの主が来るのは遅い』と言うことがないようにしよう。キリストのまもない再臨のメッセージが真剣な警告の言葉のうちに鳴り響くようにしよう。どこででも男女に悔い改めて来たるべき怒りを免れるように説得しよう。彼らを速やかな準備に目覚めさせよう。なぜなら、わたしたちは自分たちの前に何があるかをほとんど知らないからである。牧師も信徒も実った畑に出て行って、心配もせず無関心な魂に、主を見いだすことができるうちに求めるよう告げなさい。」（教会への証 8 巻 252, 253）

3. 昇天と保証

a. イエスは昇天の直前に最後に述べられた中で、何を強調なさいましたか。またこれはわたしたちにとって何を意味しますか（使徒行伝 1:4, 5, 8, 9）。

「みたまは人を生れかわらせる働きをするものとして与えられるのであって、これがなければ、キリストの犠牲は何の役にもたたなかったであろう。悪の力は幾世紀にわたって強められ、人々がこのサタンのとりことして屈服していることは驚くばかりであった。罪に抵抗してこれに打ち勝つ唯一の道は、制限された力ではなく天来の満ち足りた力をもってこられる第三位の神、聖霊の偉大な働きを通してである。世のあがない主によって達成されたことに効果を与えるのはみたまである。心が清くされるのはみたまによってである。みたまによって、信者は神の性質にあずかる者となる。すべての先天的後天的な悪の傾向に打ち勝つ天来の力として、またご自身の品性を教会に印象づける天来の力として、キリストはみたまをお与えになった。」（各時代の希望下巻 156, 157）

b. すべての時代における忠実な信徒たちは、どのような祝福された保証と共に希望のうちに安んじることができますか（使徒行伝 1:10, 11; テトス 2:11–13）。

「弟子たちは将来についてもはやなんの不安もなかった。イエスが天におられ、イエスの思いはいまも彼らと共にあることがわかっていた。彼らは神のみ座に友なるイエスがおられることを知り、イエスのみ名によって熱心に天父に願いごとをささげた。」（同上 384）

「言いあらわすことのできないよろこびをもって、主権者も支配も権威も生命の君の主権を承認する。天使の万軍がキリストの前にひれ伏すと、『ほふられた小羊こそは、力と、富と、知恵と、勢いと、ほまれと、栄光と、さんびとを受けるにふさわしい』とのよろこびの叫びが、天のすべての宮廷を満たす（黙示録 5:12）。…

この天のよろこびの光景から、『わたしは、わたしの父またあなたがたの父であって、わたしの神またあなたがたの神であられるかたのみもとへ上って行く』とのキリストご自身のすばらしいみことばの反響が地上のわれわれのもとに返ってくる（ヨハネ 20:17）。天の家族と地の家族は一つである。われわれのために主はのぼり、われわれのために主は生きておられる。『そこでまた、彼は、いつも生きていて彼らのためにとりなしておられるので、彼によって神に来る人々を、いつも救うことができるのである』（ヘブル 7:25）。」（同上 386, 387）

4. 目的をもって会う

a. 弟子たちはどこで集まりましたか。そこにいた人々はだれでしたか。また彼らは何をしていましたか（使徒行伝 1:12–14）。わたしたちはこの段階から何を学ぶことができますか。

「弟子たちは約束が成就されるのを待っていたあいだ、謙遜な心でほんとうに悔い改め、また自分たちの不信心を告白した。彼らは、キリストがなくなられる前にお語りになったことばを思い出しながら、それらの意味を一層深く理解した。既に記憶から消えてしまっていた真理が再び心によみがえってきて、彼らはこれを互いにくり返し合った。……

こうした準備の日々は、深く心をさぐる日々であった。弟子たちは霊的な不足を感じ、救霊の働きをするのにふさわしい者となることができるように、聖油が注がれることを祈り求めた。彼らは自分たちのために祝福を求めたのではない。彼らは魂の救いという重荷を負っていた。弟子たちは、福音が世に宣べ伝えられなければならないことを悟って、キリストが約束された力を求めたのである。」(患難から栄光へ上巻 30, 31)

b. 12 名の信徒からなっていた初期教会がなした決心を一つあげなさい（使徒行伝 1:15–26）。できたばかりの教会においてなされた選択方法は、なぜ必ずしも通常の方法だとみなされる必要はないのですか（使徒行伝 6:3）。

「すべての教会員は、教会の役員選出に発言権がある。」（教会への証 8 巻 236）

「神がご自分の民を教えるために制定された健全にして分別のある諸原則から導き出され、コインを投げて決めるような手段に方向性をまかせるようなことがないようにしよう。そのような方針は魂の敵を大いに喜ばせる。なぜなら、彼はコインを操作するために働き、そのやり方を通して自分の計画を実行するからである。だれ一人簡単に欺かれてそのようなテストに信頼を置くことがないようにしよう。だれ一人神のみわざに関わる重要な問題における方向性を求めて安っぽい手段に訴えることにより、自分たちの経験を見くびることがないようにしよう。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 2 巻 326）

「あなたの聖書を多くの祈りをもって読みなさい。他の人々を低くすることなく、自らを神のみ前に低くし、そして互いをやさしく取り扱いなさい。教会の役員のためにくじを引くのは、神の秩序ではない。責任のある人々を教会の役員を選出するために招集しなさい。」（同上 328）

木曜日　4月8日

5.　今日のわたしたちの必要

a.　たった今、わたしたちすべての者の最大の必要は何ですか（イザヤ 26:4, 8, 9）。

「あなたが自分の意志と自分の知恵を捨て、キリストに学ぶなら、神の国に入ることができる。キリストは全的献身を求められる。あなたの生き方を捨て、キリストのために心をささげて、その導きに従いなさい。幼な子のようにならなければ、天国に入ることはできない。

キリストのうちに住むというのは、キリストの性質だけを選ぶことである。そうすれば、あなたの関心はキリストの関心と同一となる。キリストのうちに住み、キリストのみ心のままになり、そのみ心のままに行動しなさい。これが弟子となる条件である。これに従わなければ、あなたは心に休みを得ることができない。心の休みはキリストの内にある。キリストから離れてはどこにもあり得ない。……

あなたには内側のより高い経験が必要である。キリストの内に住んで、恵みに成長しなければならない。あなたが悔改める時、あなたは他人の妨げとなることなく、かえって兄弟たちを強めるであろう。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 110, 111）

「もしわたしたちが神聖な生活において進歩したいのであれば、多く祈りのうちにいなければならない。真理のメッセージが最初に宣布されたとき、わたしたちはどれほど祈ったことであろう。どれほどしばしば、部屋や小屋や果樹園、あるいは木立で、とりなしの声が聞かれたことであろう。しばしばわたしたちは熱心な祈りのうちに数時間を過ごし、二人三人が共に約束を求めた。しばしば涙ぐんだ声が聞かれ、その後感謝と讃美の声が聞かれた。今や神の日はわたしたちがはじめ信じた時よりも近い。そうであれば、初期の日々よりももっと真剣に、もっと熱心に、もっと熱烈であるべきである。わたしたちの危険はその当時よりも大きい。魂はさらに頑なになっている。わたしたちは今キリストの霊を吹き込まれる必要がある。そしてそれを受けるまで休むべきではない。」（教会への証 5 巻 161, 162）

金曜日　4月9日

個人的な復習問題

1. **ヨハネ 14 章に示されているように、聖霊を受けるための条件を挙げなさい。**
2. **なぜわたしたちは時を定めることに自分たちの信仰の基礎を置こうとしてはならないと命じられているのでしょうか。**
3. **クリスチャン生活にとって、なぜ聖霊は必要不可欠なのでしょうか。**
4. **最初の教会の集まりで祈りの主な焦点は何でしたか。**
5. **初期のアドベンチスト信徒たちが焦点をあてていたことによって、どのように鼓舞されますか。**

ペンテコステにおける力

「このように、あなたがたは悪い者であっても、自分の子供には、良い贈り物をすることを知っているとすれば、天の父はなおさら、求めて来る者に聖霊を下さらないことがあろうか。」(ルカ 11:13)

「わたしたちは、弟子たちがペンテコステの日に祈ったように、聖霊の効果を求めて真剣に祈るべきである。もし彼らがその当時必要としていたとすれば、今日わたしたちはそれをさらに必要としている。」(教会への証 5 巻 158)

参考文献：　患難から栄光へ上巻 29–38
　　教会への証 8 巻 19–23

日曜日　*4 月 11 日*

1.　注ぎのために準備する

a.　祈りに対する答えとして、弟子たちが一つになって一か所にいたとき、何が起こったでしょうか。また、わたしたちはこのことから、何を学ぶことができるでしょうか (ルカ 11:13; 使徒行伝 2:1, 2)。

「聖霊が注がれたのは、弟子たちが完全な一致に至り、もはや最高の地位を求めて争わなくなった時であったことに注目しなさい。彼らは一致していた。すべての相違は取り除かれていた。…

弟子たちは自分たちのために祝福を求めたのではなかった。彼らは魂の重荷を負っていた。…

クリスチャンたちはすべての不和を取り除き、失われた者の救いのために神に献身しよう。信仰のうちに約束された祝福を求めさせなさい。そうすれば、それはもたらされるのである。」(教会への証 8 巻 20, 21)

「わたしたちは教理と精神において一致するよう、問題なく求めることができる。そしてもしこれがなされたら、神のみ旨と調和するのである。もし利己心と誇りと虚無と邪推が取り除かれるなら、わたしたちは神のうちに強くなる。そしてキリストに入っていただくためにわたしたちの心の戸が開かれる。聖霊のバプテスマがわたしたちの上にくだり、わたしたちは満ちみちた神の徳で満たされる。」(ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1890 年 4 月 22 日)

2. 多様な国民の聴衆の前で

a. まもなく弟子たちはどのような奇跡を経験しましたか。なぜそれが必要だったのですか（使徒行伝 2:3-11）。この出来事はどのように預言されていましたか（マルコ 16:17）。

「聖霊は炎の舌の形をとって、集まっていた人々の上にくだった。これは、そのとき弟子たちにさずけられた賜物の象徴であった。そして彼らは、それまで知らなかった他国の言葉で流暢に話すことができた。その炎は、使徒たちが働くときの燃えるような熱意と、その働きに伴う力を現した。

エルサレムには、天下のあらゆる国々から、信仰深いユダヤ人たちがきて住んでいた。ユダヤ人たちは離散された期間に、人が住むほとんどすべての場所へ散らされ、異境の生活の中でさまざまの違った国語を話すことを学んでいた。この時、これらのユダヤ人の多くがエルサレムに来て、その時行われていた宗教の祭りに出ていた。そこにはあらゆる国語を話す人々が集まっていた。このように言葉がいろいろ異なっていたことは、福音宣伝のためには非常な妨げとなったはずであった。そこで神は、不思議な方法で弟子たちの不足を補われたのである。聖霊は彼らが一生かかってもなし遂げられないことを彼らのためになさった。弟子たちは今、自分たちの働きかけている人々の言語を正確に話して、福音の真理を広く宣伝することができた。この奇跡的な賜物は、彼らの任務が天の認印を押されたものであることを世に示す確かな証拠であった。この時から弟子たちの言葉は、母国語で語ろうと、外国語で語ろうと純粋で単純で正確であった。」（患難から栄光へ上巻 34, 35）

b. どのように旧約の預言者たちはこの賜物の危険な偽物を示されましたか（イザヤ 8:19, 20）。

「これらの〔狂信の精神に支配された〕人々の何人かは、彼らが賜物だと呼ぶものを働かせ、主が彼らを教会におかれたのだと言う。彼らは自分たちが異言だと呼ぶ意味のないわからない言葉を語るが、それは人に知られていないだけでなく、主にも全天にも知られていないのである。そのような賜物は、大欺瞞者に助けられて男女が作り出したものである。」（教会への証 1 巻 412）

3. 本物を追い求める

a. 安っぽく浅はかな疑似宗教的な興奮と、本物の聖霊に導かれたリバイバルの違いを説明しなさい（マタイ 7:15–20; 詩篇 77:6）。

「狂信、偽りの興奮、偽りの異言を語ること、また騒がしい働きが、教会に神が置かれた賜物だと考えられてきた。ある人々はここで欺かれてきた。これらすべての実は良いものではなかった。『あなたがたはその実によって彼らを見わけるのである』。狂信や騒音は信仰の特別な証拠だと考えられてきた。ある人々は自分たちが強力で嬉しい時間を持たない限り、集会に満足しない。彼らはこのために働き、感情の興奮を起こす。しかし、そのような集会の感化力は益をもたらさない。嬉しい感情の高まりが去ると、彼らは集会の前よりも低く沈むが、それは彼らの幸福が正しい源から来ていなかったからである。霊的に前進するためにもっとも益となる集会は、厳粛さと心の深い探求によって特徴づけられている集会である。各自が自らを知ることを求め、真剣に、深い謙遜をもってキリストから学ぶことを求めるのである。」（教会への証 1 巻 412）

b. この世で、何がはっきりとキリストに真に従う従者を特徴づけますか（ヤコブ 2:18; ガラテヤ 5:6）。

「わたしたちは、自分の行いによって、自分の信仰を示すべきである。キリストの霊を大規模に得るために、大きな渇望が表されるべきである。なぜなら、この中に教会の強さがあるからである。神の子らを引き離そうと奮闘しているのがサタンである。愛、ああ、わたしたちにはなんとわずかな愛しかないことであろう、神への愛と互いへの愛が！真理の言葉と霊は、わたしたちの心に宿るとき、わたしたちを世から分離させる。真理と愛の不朽の諸原則が心と心を結び合わせ、享受する恵みと真理の大きさに従って一致の力が存在する。わたしたちが各自、鏡、すなわち神の王の律法を掲げて、その中に神ご自身のご品性が映されているのを見ることは良いことである。神の言葉の中に与えられている危険な信号や警告を見落とすことがないように注意しよう。これらの警告に注意を払い、品性の欠点が克服されない限り、これらの欠点がその欠点を持つ者に打ち勝ち、所有するようになり、彼らは過ち、背教、そして公の罪へと陥るようになる。最高の標準にまで高められない思いは、しばらくすると、一度は得ていたものを保持する力を失うようになる。」（教会への証 5 巻 537）

4.　　機会がわたしを待ち受けている

a.　弟子たちが御霊を通してはっきり語ったとき、どの二つの応答―ひとつは関心を表し、もうひとつはサタンの典型的な嘲りという戦略によって駆り立てられたもの―が聞かれましたか。(使徒行伝 2:12, 13)。

「主が働きをしようとされると、サタンはだれかが反対するように働きかける。」(各時代の希望中巻 350)

「主はご自身の方法で働いておられた。しかし、世の終わりが臨もうとしているわたしたちの間であのような現れがあったなら、あの時のように、ある人々が嘲られるのではないだろうか。聖霊の感化力の下に来なかった人々は、それがわからなかった。この種類の人々にとって、弟子たちは酔っ払いのように見えた。」(牧師への証 66)

b.　ペテロが起こっていることをただちに明確にした方法から、わたしたちは何を学ぶことができますか (使徒行伝 2:14–21)。

c.　使徒が引用した旧約の預言の成就は、わたしたちの時代においても、どのように繰り返されますか (ヨエル 2:28, 29)。

「ペンテコステの日の出来事がその時よりもさらに大きな力で繰り返される時を、わたしは真剣に切望し、待ち望んでいる。ヨハネは『この後、わたしは、もうひとりの御使が、大いなる権威を持って、天から降りて来るのを見た。地は彼の栄光によって明るくされた』と言っている。その時、ペンテコステの時のように、人々はみな真理が自分自身の言語で語られるのを聞くようになる。

神はご自分に仕えようと真心から願うすべての魂に新しい命を吹き込み、そしてくちびるを祭壇からの炭火で触れ、それらを神の讃美で雄弁なものにすることがおできになる。幾千もの声が神のみ言葉のすばらしい真理を語り出す力を吹き込まれる。どもる舌は解かれ、臆病者は真理に対する勇敢な証をになうために強くされる。」(SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1055)

木曜日　*4月15日*

5.　　思いをキリストへ導く

a.　ペテロはどのように、群衆をキリストに紹介しましたか（使徒行伝 2:22–24）。

「この光景はまことに興味深い。見よ、人々は弟子たちが、イエスにある真理をそのままあかしするのを聞こうと、四方から集まってくる。彼らは会堂いっぱいに押しかけてくる。祭司や役人たちもまだ、敵意のある暗い顔をしかめてそこにいるが、彼らの心はなおもキリストに対する憎しみに満ち、その手は、この世のあがない主を十字架につけた時の、殺害行為からきよめられていなかった。彼らは使徒たちが強力な迫害や虐殺の手を恐れて、おびえているだろうと思っていた。ところが、彼らは、使徒たちがすべての恐れを乗り越えて、み霊に満たされ、力強くナザレのイエスの神性を宣べ伝えているさまを見るのである。彼らは使徒たちが、ごく最近、屈辱を受け、嘲笑され、残酷な手で打たれ、十字架につけられたかたが、いのちの君であって、今や神の右にまで高められていることを、勇敢に宣べ伝えているのを聞く。」（患難から栄光へ上巻 37, 38）

b.　ペテロはふたたび、どのように自分の説教に預言を持ち込みましたか（使徒行伝 2:25–36）。

c.　そのときの聖霊の驚くべき働きを述べなさい（使徒行伝 2:37; ヨハネ 16:7, 8）。

「神に受け入れられる献身の性質をあらわしてくださるのは聖霊の働きである。聖霊の働きを通して神は理解を与えられ、品性は新たにされ、聖化され、向上するのである。」（ｾﾚｸﾃｯﾄﾞ・ﾒｯｾｰｼﾞ 1 巻 177）

金曜日　*4月16日*

個人的な復習問題

1.　何が、個人的にわたしが聖霊を完全に受けることを妨害するかもしれませんか。
2.　どの実際的な目的のために、使徒たちは言葉の賜物を必要としていましたか。
3.　キリストと共に本物の経験を得ることに対して、どのように感情本位はわなとなりますか。
4.　わたしの期待と違って神が働かれるとき、わたしは何を思い起こすべきですか。
5.　ペテロの説教を聞いたときの二種類の人々を述べなさい。

悔い改めから生じる喜び

「すると、ペテロが答えた、『悔い改めなさい。そして、あなたがたひとりびとりが罪のゆるしを得るために、イエス・キリストの名によって、バプテスマを受けなさい。そうすれば、あなたがたは聖霊の賜物を受けるであろう。』」（使徒行伝 2:38）

「もし天使たちの喜びが、罪人の悔い改めを見ることなのであれば、自分という器を通して他の人たちが悔い改め、キリストに向かうのを見ることは、キリストの血によって救われた罪人たちの喜びとならないであろうか？キリストや聖天使たちと調和して働くことによって、わたしたちはこの働きをおいては実感することができない喜びを体験するようになる。」（教会への証 3 巻 381, 382）

参考文献：　患難から栄光へ上巻 38–55

日曜日　*4 月 18 日*

1.　勇気ある保護

a.　キリストが実際にどなたであったのかに関して、群衆の良心が目覚めたとき、ペテロはすぐに、どのような強力な訴えをしましたか（使徒行伝 2:38–40）。

「わたしたちは世に真理を告げることを、恐縮したり、許しを請うたりすべきではない。わたしたちは隠すことを拒むべきである。人と天使の事業に応じるために、あなたの軍旗を広げなさい。セブンスデーアドベンチストは妥協できないことを理解させなさい。あなたの意見や信仰において、少しも揺らぐ様子があってはならない。世はわたしたちに期待されていることが何であるかを知る権利がある。…

主はご自分の僕たちが古い福音の教理、罪に対する悲しみ、悔い改め、告白を宣布することを望んでおられる。わたしたちは時代遅れの説教、時代遅れの習慣、イスラエルにおける時代遅れの父親と母親を必要としている。罪人のために辛抱強く、真剣に、賢明に働かなければならない。すなわち、彼が自分は神の律法の違反者であることを認め、神に対する悔い改めと主なるイエス・キリストに対する信仰を働かせるようになるまで働かなければならないのである。」（伝道 179, 180）

2. 奇跡的な結果

a. 聖霊を通して、どのような驚くべき働きがなされましたか（使徒行伝 2:41）。

「ペテロは彼らの間に立ち、強い力で語った。彼の言うことを聞いていた人々の中には、誠実なユダヤ人がいて、彼らは信仰において誠実であった。しかし語る者の言葉に伴った力が、キリストこそ本当のメシヤであるとの確信を得させた。なんという強力な力が伴ったことであろう！一日に三千人もの人が改心した。

種は世が知る最も偉大な教師によってまかれてきた。三年半の間、神の御子はユダヤの地にとどまり、真理の福音のメッセージを宣布し、力強いしるしと不思議をもって働かれた。種はまかれてきた。そしてこのお方の昇天後、大収穫が起こるのであった。ペンテコステの日の一つの説教によって、キリストのみ働きのすべての年月の間に改心したよりも多くの人々が改心した。人が御霊の支配に自らを捧げるとき、神は非常に力強く働かれるのである。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1055）

b. 地上の教会の態度を述べなさい。またわたしたちはみなそこから何を学ぶ必要がありますか（使徒行伝 2:42–47）。

「聖霊の降下の後、弟子たちはよみがえられた救い主を宣布しに出ていった。彼らの一つの願いは魂の救いであった。彼らは聖徒たちの交わりの芳しさを喜んだ。彼らは優しく、思いやりがあり、自己否定的で、真理のためにはどんな犠牲でも喜んでささげた。彼らが互いに日々交わるとき、キリストが表すようにとお命じになった愛を表した。無我の言葉と行為によって、彼らは他の人々の心にこの愛を灯そうと奮闘した。

信徒たちは、聖霊の降下の後、使徒たちの心を満たした愛をつねに心に抱き続けるべきであった。彼らは『わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい』という新しい戒めに心から従い、出て行くのであった（ヨハネ 13:34）。彼らが非常にキリストに結びついていれば、このお方のご要求を満たすことができるのであった。彼らをご自分の義によって義とすることがおできになる救い主の力が、大いなるものとされるのであった。」（教会への証 8 巻 241）

3. 宮での奇跡

a. 宮の美しの門で、主はすばらしい奇跡を働くために、どのようにペテロとヨハネをお用いになりましたか（使徒行伝 3:1–10）。

「大いなる力をもって、弟子たちは、十字架にかけられよみがえられた救い主を宣べ伝えた 。彼らは、イエスの名によって、しるしと奇跡を行った。病人はいやされた。生まれながらの足なえが完全な健康を回復し、すべての人々の前で、あるき回ったり踊ったりして神を賛美しながら、ペテロとヨハネと一緒に宮にはいって行った。」（初代文集 324）

b. 人々は奇跡に対してどのように反応しましたか。またペテロはその奇跡の実際の源を強調するために何を宣言しましたか（使徒行伝 3:11–16）。

「この知らせが広がって人々は、弟子たちの回りに押しかけてきた。多くの人々が走り寄ってきて、行われたいやしのわざを見て、大いに驚いた。

祭司たちは、イエスが亡くなったときに、もう奇跡は、彼らの間で行われることはなく、興奮もさめて、人々はふたたび人間の言い伝えにかえってくるものと思った。ところが、どうであろう。弟子たちは、彼らのまっただ中で、奇跡を行い、人々は、驚きに満たされている。イエスは十字架にかけられたのに、彼の弟子たちは、一体どこからこの力を得たのだろうかと、彼らは不思議に思った。彼が生きていた時には、彼が彼らに力を与えたのだと彼らは思っていた。彼は、もう死んでしまったのであるから、奇跡もそれで終わるものと彼らは予想していた。」（同上 324, 325）

c. ペテロはどのように親切に、自分の聴衆たちに対して好意的に解釈しましたか（使徒行伝 3:17）。

「『あなたがたは知らずにあのような事をした…ことは、わたしにわかっている』とペテロは言った。しかし、この無知は行為の言い訳にはならなかった。なぜなら、彼らには大いなる光が与えられていたからである。もしこのお方が命の君であることがわかっていたなら、彼らはこのお方を十字架にはつけなかったであろうとの陳述がなされた。しかし、彼らはなぜ知らなかったのであろうか。それは彼らが知らないことを選んだからである。彼らは探求し研究するほどの関心がなかったため、彼らの無知は彼らの破滅となった。彼らには自分たちの信仰の基礎となる最も強力な証拠があった。そして彼らは神が自分たちに与えてくださった証拠を受け入れる義務の下にいた。彼らの不信は、無限の神の愛するひとり子の血に対して有罪とした。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E・G・ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1056）

4. 岩の上に落ちるべき時

a. キリストについて真理を提示してから、ペテロは宮で彼の聴衆にどのような訴えをなしましたか（使徒行伝 3:18, 19）。この同じ訴えが、今日さらに大きな緊急性をもって、どのようにわたしたちにまでこだましていますか。

「この言葉はわたしたちに今や駆り立てるような真剣さをもって迫るべきである。〔使徒行伝 3:19 引用〕。わたしたちの中には、霊性において不十分で、完全に悔い改めない限り、確実に失われることになる者が大勢いる。あなたはこの危険を冒すことができるであろうか?…

もしわたしたちが病的な経験をのがれたければ、一刻の猶予なく、真剣に恐れおののいて自分の救いの達成に努めなければならない。自分のバプテスマの誓いに真実であるという決定的な証拠を示さない者が大勢いる。彼らの熱意は、形式、世俗的な野心、誇り、自己愛によって凍り付いてしまった。時たま、彼らの感情はかき動かされるが、岩なるキリスト・イエスの上に落ちない。彼らは悔い改めの告白のうちに砕かれた心をもって神の許へ来ない。自分の心のうちに真の改心の働きを経験した者は、その生活に御霊の実を現すようになる。ああ、霊的な命をほんのわずかしか持っていない人々が、永遠の命は神性にあずかり、世にある欲のために滅びることを免れる人々だけに与えられることを悟れば良いのだが!」（教会への証 9 巻 154, 155）

b. 使徒行伝 3:19 に言及されている「慰めの時」は、どのようにしてのみ、経験することができますか（イザヤ 43:25; 44:3, 22; 57:15; 60:1, 2）。

「福音の開始にあたって、貴重な種を発芽させるために、聖霊が注がれて『前の雨』が与えられたように、その終わりにおいて、収穫を実らせるために、『後の雨』が与えられるのである。…

福音の大いなる働きは、その開始を示した神の力のあらわれより劣るもので終わることはない。福音の開始にあたって秋の雨（前の雨）となって成就した預言は、その終局において、春の雨（後の雨）となって再び成就するのである。これが、使徒ペテロが待望した『慰め〔原文では refreshing（活気づけ回復の意）〕の時』である。彼は次のように言った。『だから、自分の罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて本心に立ちかえりなさい。それは、主のみ前から慰めの時がきて、…イエスを、神がつかわして下さるためである』（使徒行伝 3:19, 20）。」（各時代の大争闘下巻 382）

木曜日 *4月22日*

5.　　栄光に満ちた出来事のために準備する

a.　だれだけが、「慰めの時」を受けますか。また、その栄光に満ちた結果は何ですか（使徒行伝 3:19, 20; コリント第二 7:10）。

「これらの言葉は今日、迫る力をもってわたしたちに及ぶべきである〔コリント第二 7:10, 11 引用〕。これこそ、真の悔い改めである。それは生活における変化へと導く。多くの改心を表面的なものにしているのは、この罪に対する真の悲しみの欠如である。改革が生活の中になされていない。しかし、罪が神の律法の光のうちに見られるとき、またその真の性質を悟るとき、それは心と生活から取り除かれるのである。

罪に対する真の悲しみは、悔い改めた魂をイエスのそばへ近づける。そこで彼は許しを求めて効果的に嘆願し、勝利するための恵みを得ることができる。そこで、彼は暗くなった理解力を明るくされ、石の心を肉の心へ変えていただくことができる。そこで反逆する罪人は征服され、彼の意志が神のご意志へと一致させられるのである。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1911 年 6 月 8 日）

「わたしは、多くの人々が、必要な準備をおろそかにしていながら、主の日に立ち得て神のみ前に生きるにふさわしいものとなるために、『慰めの時』と『春の雨』（後の雨）とを待っているのを見た。ああ、わたしは、なんと多くの人々が、悩みの時に、避け所がないのを見たことだろう。彼らは必要な準備を怠った。だから、彼らは、聖なる神の前に生きるのに適したものと彼らをするためにすべての者が持たなければならない慰めを、受けることができなかった。…すべての罪、誇り、利己心、世を愛する心、すべての悪い言葉や行為に勝利するのでなければ、だれひとりとして、『慰め』にあずかることができないのを、わたしは見た。であるから、われわれは、ますます主に近づき、主の日の戦いに立ち得るために必要な準備をするように、熱心に求めなければならない。神は聖であられて、神のみ前に住むことができる者は聖なる者だけであることを、すべての者が覚えているようにしよう。」（初代文集 149,150）

金曜日 *4月23日*

個人的な復習問題

1. **わたしは、どのようにして、キリストが自分のためにしてくださった通りに、キリストのためにはっきりと語る勇気を発達させることができますか。**
2. **なぜ、弟子たちは自分たちが働き始めたちょうどそのところから、あれほど成功したのですか。**
3. **どのように人々に対して好意的な解釈をすることによって、互いの敬意を促進することができますか。**
4. **神はなぜ、後の雨の力をわたしたちにおゆだねになる前に、悔い改めるようにお命じになるのですか。**
5. **慰めを受けるためにわたしが克服すべきいくつかのからみつく罪は、何でしょうか。**

安息日 2021 年 5 月 1 日

第一安息日献金
世界ミッションのために

キリストに従う人々にとって次のキリストの言葉はなじみ深いものです「全世界に出て行って、すべての造られたものに福音を宣べ伝えよ」（マルコ 16:15）。

この力強い命令の非常に際立ってることは何でしょうか。永遠の福音が全世界へ伝えられると言うことです。「地に住む者、すなわち、あらゆる国民、部族、国語、民族に宣べ伝えるために」（黙示録 14:6）。

クリスチャンの数は（すべての教派をあわせて）世界でおよそ 24 億人です。世界人口 78 億人近い中でです。これらの莫大な数のうち、多くの人々が現代の真理に触れてきましたが、大部分はまだです。

「しかし、信じたことのない者を、どうして呼び求めることがあろうか。聞いたことのない者を、どうして信じることがあろうか。宣べ伝える者がいなくては、どうして聞くことがあろうか」（ローマ 10:14）。非常に多くの貴重な魂が、深い闇とまったくの混乱のうちにいます！それでもなお、「しかし神は、まだバビロンの中にご自分の民を持っておられる。そして、神の刑罰が下る前に、これらの忠実な人々を呼び出して、彼らがその罪にあずからず、『その災害に巻き込まれないように』しなければならないのである。…

しかし、真理が人の心と良心に明らかに示され、そしてそれが拒否された上でなければ、だれひとりとして神の怒りを受けることはない。現代に対する特別の真理を聞く機会がこれまでになかった者が、大ぜいいる。第四条の戒めに従うべきことの真の意味が、まだ彼らに示されていない。すべての人の心を見ぬき、あらゆる動機を探られるおかたは、真理を知りたいと願っている者をだれ一人として、争闘の論点について欺かれるままにしてはおかれない。法令は、盲目的に人々に強制されることはない。すべての者は、賢明な決断を下すに十分なだけの光が与えられるのである。」（各時代の大争闘下巻 372, 374）

彼らはどのように聞くでしょうか？わたしたちはみな、自分の友人、親戚、隣人、知り合い、そして他人に無償で伝えることができます。しかし、わたしたちの届かない場所で、さらに多くなすべきことがあります。わたしたちの金銭的な賜物は、新しい地域に伝道活動を打ち立てるために用いることができます。ですから、世界ミッションのために第一安息日献金が集められるときには、どうかこの必要を覚えて、惜しみなく捧げてください。皆さんの信仰が豊かに報いられますように！

世界総会伝道支部

神のみを恐れる

「ペテロとヨハネとは、これに対して言った、『神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従う方が、神の前に正しいかどうか、判断してもらいたい。わたしたちとしては、自分の見たこと聞いたことを、語らないわけにはいかない』」(使徒行伝 4:19, 20)

「聖霊の注ぎの後、弟子たちは神聖なよろいかぶとをまとって、証人としてまぶねから十字架までの驚くべき物語を告げるために出て行った。彼らはつつましい人々であったが、真理をもって出て行った。」(牧師への証 66)

参考文献：　患難から栄光へ上巻 58–69
教会への証 6 巻 394–401

日曜日　*4 月 25 日*

1.　すべての光に従って生きる

a.　今日―キリスト再臨前に起こる―万物更新のときに、わたしたちの召しは何ですか (使徒行伝 3:20–25)。わたしたち各自に個々にゆだねられている光に関してわたしたちの義務を説明しなさい (同 26 節)。

「今日でも、先祖の習慣や伝統を固守する人が多い。主が彼らに新しい光をお与えになると、彼らは、それが先祖に与えられておらず、彼らがそれを受け入れていなかったという理由で受けることを拒む。われわれは、先祖たちの時代におかれてはいない。したがってわれわれの義務と責任は、彼らと同じではない。自分で真理の言葉を探究せずに、先祖の模範によってわれわれの義務を決定しようとすることは、神に喜ばれない。われわれの責任は、先祖たちの責任よりはいっそう重いのである。われわれは、彼らが受けた光、そして、われわれに遺産として伝えられたものに対して責任がある。そして、われわれは、今神のみ言葉からわれわれの上に輝いている追加的な光に対してもまた責任がある。」(各時代の大争闘上巻 196, 197)

「もしわれわれが、神の言葉のあかしを離れ、先祖たちが教えたものであるからという理由で偽りの教理を受け入れるならば、われわれは、バビロンにくだされた罪の宣告を受ける。われわれはその憎むべき酒を飲んでいることになるのである。」(同上下巻 285)

「あなたは、他のすべての人に影響されることなく、あなたの道に照らされた光をあなたが用いる方法についてのみ責任がある。他人の献身が足りないことは、あなたにとって言い訳とはならない。彼らが真理によって聖化されていないために、その一連の悪い行動によって真理がゆがめられるという事実が、あなたの責任を減じることはない。」(教会への証 2 巻 490)

2. 傷つけられた誇り

a. 宮で指導者たちは、ペテロが提示した力強いメッセージに、どのように反応しましたか（使徒行伝 4:1–4）。

「キリストが死人の中からよみがえられた後、祭司たちはローマの兵卒たちが寝ている間に弟子たちによってキリストの体が盗まれたという偽りの報告をそこかしこに広めた。…宮の長と他の役人の何人かはサドカイ人であった。これらは弟子たちの宣教によって大いに怒った。彼らは自分たちのお気に入りの教理が危険にさらされ、自分たちの評判が危ないと感じた。…

弟子たちの反対者は、キリストが死人の中からよみがえられたと信じないわけにはいかなかった。疑うにはあまりにも証拠に説得力があった。それにもかかわらず、多くの人々は心を頑なにし、自分たちがイエスを死に処すことによって犯した恐ろしい行為を悔い改めることを拒んだ。天からの力が使徒たちに非常に顕著な方法で臨んだとき、ユダヤ人の指導者たちは恐怖から暴力を控えたが、彼らの憎しみと悪意は変わっていなかった。

五千人の人々はすでに弟子たちによって宣布された真理を受け入れていた。そしてパリサイ人もサドカイ人も、もしこれらの教師たちが抑制されずに許されるならば、自分たち自身の感化力は、イエスが地上におられたとき以上に大きな危険にさらされるという点で同意した。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1911年6月8日）

b. 誇りと反逆はどのように霊的な盲目へと導くことがありますか（列王記下 17:13, 14）。

「聖霊はしばしば、予期しない方法でもたらされるために、拒まれる。使徒たちが神聖な霊感の下に語り、行動しているという豊かな証拠がユダヤ人指導者たちに与えられてきたが、彼らは頑なに真理のメッセージを拒んだ。キリストは彼らが予期していた方法でこられなかったので、時々に彼らはこのお方が神の御子であると確信させられたにもかかわらず、彼らは確信をもみ消し、このお方を十字架につけた。憐れみのうちに神は彼らにさらなる証拠とご自分に戻るもう一度の機会をお与えになった。このお方は弟子たちをつかわし、彼らが何をしたのか、そして命の君を殺したという恐ろしい罪のうちに、このお方は彼らに悔い改めるためのもう一度の召しを与えてくださったことを告げさせた。しかし、自分自身の義のうちに安全を感じ、ユダヤ人の教師たちは、キリストを十字架につけた罪を自分たちに宣告している人々は、聖霊の指示によって語っているのだということを認める用意ができていなかった。」（同上）

3.　明らかにされた真理

a.　翌日、ユダヤ人の役人たちは何を命じましたか。またわたしたちはペテロの大胆で包括的な言葉から、どのように鼓舞されますか（使徒行伝 4:5–11）。

「その同じ部屋で、何人か同じ顔ぶれの人たちの前で、ペテロは以前に、恥知らずにも自分の主を拒んだのであった。ペテロは、今、自分が裁かれるために出頭して、この事をはっきりと思い出した。ペテロにとっては今こそ、自分の臆病を償う時であった。

そこに連なっていた人々は、キリストが裁かれた時にペテロが取った行為を覚えていて、ペテロは今、投獄と死の恐怖におじけづいているであろうと、高をくくっていた。しかし、キリストが最も苦しんでおられた時に、主を拒んだペテロは、衝動的で、自信家であったが、取り調べを受けるためにサンヒドリンに連れて来られたペテロは、以前のペテロとは違っていた。彼は、つまずいて以来、改心していた。彼はもはや誇らず、高慢にならず、謙遜で、自己に頼らない者になっていた。ペテロは聖霊に満たされ、聖霊の力によって、一度捨てたみ名をあがめ、自分の背信の汚点を取り除く決意であった。」(患難から栄光へ上巻 60, 61)

b.　何がペテロの返答の記憶すべきクライマックスでしたか。またそれは今日の危険な人気のある理論に直面しながら、どのようにもちこたえますか(使徒行伝 4:12)。

「人々の心から悪の手をうち破ることができる力は一つしかない。それはイエス・キリストのうちにある神の力である。十字架につけられたお方の血を通してのみ、罪からの清めがある。このお方の恵みだけが、わたしたちの堕落した性質の傾向に抵抗し、それを征服することができる。この力は、神に関する霊的な理論を無効にする。もし神が自然全体に満ちている要素であれば、このお方は全人類のうちに宿っておられることになる。そして聖潔を得るために、人はただ自分のうちにある力を発達させればよいだけになる。…

神に関するこれらの理論はみ言葉を効果のないものにする。そしてそれらを受け入れる人々はついに聖書全体を作り話だとみなすように導かれる危険が大いにある。…助けを受けなければ、人間は悪に抵抗し、勝利する真の力を持つことはない。魂の防御は崩壊されてしまう。人には罪に対する防壁がない。ひとたび神のみ言葉と神の御霊の抑制が拒まれると、わたしたちはどれほどの深さにまで沈むかわからないのである。」(教会への証 8 巻 291, 292)

4. 地にある力

a. ユダヤ人の指導者たちはなぜペテロとヨハネに驚いたのですか。またこれはわたしたちすべての者に―牧師にも信徒にも等しく―祈りをもって何を考えさせるべきですか（使徒行伝 4:13, 14; コリント第一 1:27）。

「イエスの昇天後、医者、律法学者、祭司、役人、学者、そして神学者たちは、無学でつつましい人々から語られる知恵と力の言葉を驚いて聞いた。これらの賢人たちは、身分の低い弟子たちの成功に驚き、ついに彼らがイエスと共にいてこのお方から学んだという事実が主な原因であると解釈して納得した。彼らの品性と教えの単純さは、キリストのご品性と教えに似ていた。…

虚無と誇りが人々の心を満たしていた。神の恵みだけが改革をなすことができる。

わが兄弟よ、神があなたをへりくだらせるのを待たずに、自らをへりくだらせるのが、あなたの働きである。神のみ手は時に人々をへりくだらせ、神のみ前にしかるべき立場へ至らせるのに重くのしかかる。しかし、心が日々に神のみ前にへりくだり続けるならば、どれほどはるかに良いことであろう。わたしたちは自らを低くすることができるし、あるいは誇りのうちに自らを築き上げて、神がわたしたちを低くするまで待つこともできる。福音の牧師たちは今日真理のためにほとんど苦しまない。もし彼らが、キリストの使徒たちのように、あるいは後の時代の神の聖なる人々のように迫害されるなら、キリストの側に近く身を寄せ、この救い主とのより近いつながりが、彼らの言葉を地において力とすることであろう。」（教会への証 4 巻 378, 379）

b. 困惑のうちに、祭司たちは何をせざるを得ないと感じましたか（使徒行伝 4:15–18）。

c. 弟子たちの勇気ある応答は何でしたか。また祭司たちにはどの選択肢しか残っていませんでしたか（使徒行伝 4:19–22）。

「祭司たちはこのふたりが神の召しに確固たる忠誠を示しているという理由で、思うままにふたりを罰したいと思った。しかし、彼らは民衆を恐れた。『みんなの者が、この出来事のために、神をあがめていた』からである。そこで、弟子たちは何度もおどされ、きびしくいましめられて、釈放された。」（患難から栄光へ上巻 66）

木曜日 *4月29日*

5.　　キリストのために立つのに勇敢

a.　弟子たちは釈放された後、どこへ行きましたか。またわたしたちは彼らの祈りによって、どのように鼓舞されますか（使徒行伝 4:23–30）。結果として何が起こりましたか（使徒行伝 4:31）。

b.　過去の時代の改革者と共に、厳粛な現代の真理をゆだねられた人々の祈りは、どのような種類のものであるべきですか（詩篇 60:3–5）。

「1529 年にドイツの諸侯がシュパイエル会議に召集された時、宗教の自由を抑圧し、それ以後、改革派の教理の宣伝を厳禁する皇帝の勅令が出された。この世界の希望はまさに抹殺されようとしていた。……福音の光は、今もなお暗黒の中にいる多くの人々から閉ざされてよいだろうか。世界の大問題が危機にひんしていた。そこで改革派の信仰を受け入れていた人々が集まり、『この勅令を拒否しよう。良心の問題について多数決ということは言えないはずだ』と満場一致で可決した。

今日、われわれはこの原則を確固として支持しなければならない。その時以来、幾世紀にわたり、福音教会の創設者や神の証人たちが高くかかげてきた真理と宗教の自由の旗は、この最後の争闘においてわれわれの手にゆだねられている。この大いなる賜物の責任は、聖書の知識をさずけられた人々の上にかかっている。われわれは、聖書のことばを最高の権威として受け入れる。われわれは人間の政府を神が定められたものとして認め、合法的な範囲内でそれに従うことを、聖なる義務として教えなければならない。しかし、その要求が神のご要求と矛盾するときは、人間よりむしろ神に従わねばならない。神のみことばをすべての人間の法律にまさるものとして認めねばならない。『教会がこう言う』、あるいは『国がこう言う』ということのために、『主がこう言われる』ということを放棄してはならない。キリストの王冠は、この世の主権者の王冠より高くかかげられねばならない。」（患難から栄光へ上巻 68, 69）

金曜日 *4月30日*

個人的な復習問題

1.　他の信徒たちがクリスチャンの義務を果たさなかったとしても、何がわたしの義務ですか。
2.　どの種類の誘惑が、わたしに聖霊を拒ませる危険におとしいれるかもしれませんか。
3.　わたしはどのように、ペテロのように敗北を勝利に変える機会を得るかもしれませんか。
4.　使徒たちが脅迫に直面しても証したことから、どのように勇気を得ることができますか。
5.　プロテスタントの改革を学ぶことが、なぜ力の源なのですか。

真の無我

「おのおの、自分のことばかりでなく、他人のことも考えなさい。」(ピリピ 2:4)

「キリストの名をとなえる人々が黄金律の原則を実行する時、使徒時代に見られたと同じ力が福音に伴うであろう。」（祝福の山 171）

参考文献：　教会への証 5 巻 148–157;
患難から栄光へ上巻 70–77

日曜日　*5月2日*

1.　神から吹き込まれた愛

a.　初期のキリスト教会の真心の愛を述べなさい（使徒行伝 4:32–35）。

「弟子たちがエルサレムで福音の真理を宣べ伝えたとき、神は彼らのことばに有利な証拠を与えられ、民衆はそれを信じた。こうした初期の信者たちの多くは、ユダヤ人の激しい頑迷さのために、たちどころに家族や友人の縁を切られてしまったので、彼らのために食物や宿を心配する必要があった。

記録によると『彼らの中に乏しい者は、ひとりもいなかった』と書かれており、彼らの必要がいかに満たされたかを伝えている。金銭や持ちものに恵まれた信者たちは、危急の場合によろこんでこれを提供した。……

信者たちのこのような寛容さは、聖霊が注がれた結果であった。福音を受け入れた人々はみな、『心を一つにし思いを一つにし』た。彼らの心はただ一つの共通な関心事に支配されていた。それは彼らに委託された伝道事業を成功させることであった。彼らの生活に、貪欲がはいり込む余地はなかった。兄弟たちへの愛や自分たちが引き受けた働きに対する愛は、金銭や所有物に対する愛よりも強かった。彼らは地上の富よりも人の魂を高く評価していることを、実際の働きで証拠だてた。神のみ霊が生活を支配するときには、常にこのようなことが起こるのである。」（患難から栄光へ上巻 70, 71）

2. 物質的な財産を放棄する

a. なぜわたしたちは初期の弟子たちが、自分の信徒仲間と快活に喜んで分かち合ったことから鼓舞されることができるのですか（ヨハネ第一 3:11, 16; ピリピ 2:3, 4）。

「心がキリストの愛で満たされている人々は、ご自身の貧しさによってわれわれが富むものとなるように、われわれのために貧しくなられたキリストの模範に従う。金銭、時間、感化力など、神のみ手からさずけられた賜物すべてを、彼らはただ福音のわざを進展させる手段として重んじるのである。初代教会ではそうであった。そして、今日も、教会の中で、教会員たちが聖霊の力に導かれて、世俗的なことがらへの愛着を捨て、自分たちの同胞に福音を伝えるために、よろこんで犠牲をはらうことが見られるならば、宣べ伝えられる真理は、聞くものの心を力強く動かすであろう。」（患難から栄光へ上巻 71）

「天と地のどこを探してみても、わたしたちの同情と助けを必要とする人々に対する憐れみの行為にあらわされるもの以上に力強い真理はあらわされていない。これはイエスのうちにある真理である。」（祝福の山 171）

b. 行動におけるこの種類の愛の本物の例を、はじめはただ神だけがまったくの偽りであることをご存じであったもう一つの例と対照しながら、一つあげなさい（使徒行伝 4:36, 37; 5:1）。

「信者たちが示した博愛の模範とひどく違った対照をなして、アナニヤとサッピラの行為があった。霊感を受けてしるされた記録を見ると、このふたりの経験は初代教会史上に汚点を残したことがわかる。みずから弟子だと名乗っていたこのふたりは、他の者たちと共に、使徒たちの説く福音を聞く特権にあずかっていた。彼らは使徒たちが祈り終えたとき『その集まっていた場所が揺れ動き、一同は聖霊に満たされ』たその場所に他の信者たちと共にいたのである（使徒行伝 4:31）。深い確信がその場にいたすべての者にやどり、直接に神のみ霊の感化を受けたアナニヤとサッピラは、ある資産を売った収益を神にささげる誓いを立てていた。」（患難から栄光へ上巻 71, 72）

3. 心からか、そうではないか?

a. アナニヤとサッピラは、自分たちが教会に捧げると誓った資産の処分をどう扱いましたか。それはなぜでしたか(使徒行伝 5:2)。

「後になってアナニヤとサッピラは欲深い気持ちに負けて、聖霊を嘆かせた。ふたりは約束を後悔しはじめた。そしてキリストのみわざのために立派なことをしたいという願いで心を燃やしてくれた、新鮮な尊い感動を失った。彼らは早まったことをしたと思った。だから自分たちの決心を考え直さなければならない。ふたりはそのことを話し合い、自分たちの誓約を果たさないことに決めた。しかし彼らは、自分たちよりも貧しい兄弟たちの必要を満たすために、自己の資産を手放した人々が信者のあいだで高く評価されているのを見て、厳粛に神にささげていたものを惜しむ自分たちの利己的な心を、人々に見すかされることを恥じ、考え抜いた末、自分たちの資産を売ることに決めた。そして彼らはその収益を全部共同資金にささげたふりをして、その実、売り上げの大部分を手放さなかった。このようにしてふたりは、共同の蓄えから生活を保証され、同時に兄弟たちからも高く評価されると思っていた。」(患難から栄光へ上巻 72)

b. わたしたちはみな、どの浅はかな動機づけに気をつけなければなりませんか(ヨハネ 12:43)。

「神はあなたの光が輝いて、あなたの良い言葉や行いが、あなた自身に人からの賞賛をもたらすようにとは意図しておられない。そうではなく、あらゆる善の創始者が栄光を受け、高められるのである。イエスはご自分の生涯において、人々に品性の模範をお与えになった。世は自分の標準に従って彼を形づくるために、彼に対してなんと力がなかったことであろう!その感化力はみな振り落とされた。このお方は宣言なさった『わたしの食物というのは、わたしをつかわされたかたのみこころを行い、そのみわざをなし遂げることである』!もしわたしたちが神のみ働きに対してこの献身があり、神の栄光だけに目を留めてそれを行うならば、キリストと共に次のように言うことができるようになる。『わたしは自分の栄光を求めてはいない』。このお方の生涯は良い行いで満ちていた。わたしたちの義務は、偉大なる模範者が生きられたように、生きることである。わたしたちの命はキリストと共に神のうちに隠されなければならない。そのとき、光がイエスからわたしたちに反射して、わたしたちはそれを周囲にいる人々に反射するようになる。ただ言葉や告白によってではなく、良い行いと、キリストのご品性を現すことによって。」(キリストを映して 41)

4. 思い切った手段

a. アナニヤとサッピラの問題について、わたしたちは何を悟り、理解する必要がありますか（コリント第二 9:7; 使徒行伝 5:3, 4）。

「アナニヤは、不当な力が加えられたために、強制されて自分の財産をみんなの益となるようにささげたのではない。彼は自分で選択し、行動したのである。しかし弟子たちを欺こうとして、神を欺いていた。」（患難から栄光へ上巻 73）

「サタンはアナニヤとサッピラが聖霊に対して欺くように導いた。完全に神へ献身していない人々は、サタンの働きをなすよう導かれながら、なお自らキリストに仕えているとうぬぼれることも可能である。」（教会への証 5 巻 103）

「人間の心はわがままからかたくなになり、アナニヤやサッピラのように神からの要求を満たしているふりをしながら、財産の一部を隠したい誘惑にかられる。多くの人々は自分を満足させるためには惜しみなく金銭を使う。男も女も自分の都合を考えて、自分たちの好みを満たしているが、神へのささげものは、しぶしぶと、切りつめて持ってくる。彼らは神の財産が使用された明細書を神がいずれ要求されることや、神がアナニヤやサッピラのささげものをお受けにならなかったように、彼らが倉に携えてきたわずかなものをお受けにならないことを忘れている。」（患難から栄光へ上巻 76）

b. 主がご自分の初期の教会を、この偽善的な夫婦のやり方から守るために取らなければならなかった思い切った方法について説明しなさい（使徒行伝 5:5–10; マタイ 6:24）。

「神の無限の英知は、この注目すべき神の怒りの顕示が、若い教会を道徳的な堕落から守るために必要であったことを見通しておられた。信徒たちは急速にふえていった。この信徒数の急増するなかで、神に仕えることを表明しながら、富を礼賛している男女が加えられていたとすれば、教会は危機に陥ったであろう。この刑罰は、人は神を欺くことができない、また、神は心にかくされている罪を見通しになられて、欺かれることがないことを立証した。この刑罰は教会員を虚偽や偽善に陥らぬよう導き、神のものを盗まぬよう用心させるために、教会に与えた警告としてもくろまれたのである。」（同上 73, 74）

木曜日 *5月6日*

5.　今日わたしたちのための警告

a.　神は今日ご自分の資金と誓いに関して、最低限、何をわたしたちに要求なさいますか（伝道の書 5:4–6; マラキ 3:8–12）。

「人々は神のみ事業に対する自分たちの誓いと誓約の神聖さを印象づけられる必要がある。そのような誓約は一般的に人から人への約束の覚書のように義務があるものと思われていない。しかし、神に対してなされたからといって、約束の神聖さや拘束力が減じるのであろうか?そこに技術的な用語がなく、法律によって強制されないからといって、クリスチャンは自分が誓った義務を無視するのであろうか。神のみ事業のためになされた誓いはどんな覚書や契約よりも強制力がある。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1056）

「新約は什一の律法を再度制定していないが、ちょうど安息日の律法を再度制定していないのと同じである。なぜなら、両者の有効性は当然であり、それらの深い霊的な重要性が説明されているからである。」（執事職への勧告 66）

「人々の心は利己心を通して頑なになっている。そしてアナニヤとサッピラのように、彼らは什一の規則に見合っているふりをしながら、代価の一部を取っておくよう誘惑される。」（教会への証 5 巻 150）

「アナニヤとサッピラの場合、神に対する欺瞞の罪は速やかに罰せられた。同様の罪は教会の後の歴史の中でもしばしば繰り返された。今日でも多くの人々により同じ罪が犯されている。しかし、たとえそれに対する神のご立腹が目に見えるようにあらわされなくとも、使徒の時代と同じように今日も神の御目にそれは憎むべきものである。警告は与えられてきた。神は明らかにこの罪を忌みきらわれた。偽善と強欲に身をやつす者は、みずから自分の魂を破壊していることを知るようになるであろう。」（患難から栄光へ上巻 77）

金曜日 *5月7日*

個人的な復習問題

1.　わたしは、どのようにして使徒行伝 4:32–35 にあらわされている態度を発達させ、培うことができますか。
2.　ヨセフ・バルナバとアナニヤの捧げ物の違いを説明しなさい。
3.　アナニヤとその妻はどの動機によって、聖霊を欺くようになりましたか。
4.　なぜ命の与え主は、有罪の夫婦を殺されたのですか。また今日、なぜこのお方はそうなさらないのですか。
5.　わたしは自分の誓いもしくは誓約、什一や献金について、何を悟る必要がありますか。

授けられた大胆さ

「そして、毎日、宮や家で、イエスがキリストであることを、引きつづき教えたり宣べ伝えたりした。」(使徒行伝 5:42)

「もし人々が受け入れるならば、彼らにとって命、すなわち永遠の命となるメッセージをあなたが持っていることを彼らに理解させなさい。もし人が熱中すべき問題があるとすれば、それは滅びようとしている世界への最後のメッセージの宣布である。」(伝道 400)

参考文献：　患難から栄光へ上巻 78–88

日曜日　*5月9日*

1.　すべてを祭壇の上に

a.　アナニヤとサッピラにくだった裁きは、信徒たちにどのような影響を及ぼしましたか (使徒行伝 5:11)。今日、財産に関してわたしたちは各自、何を考えるべきですか。

「悩みの時に、家や土地はなんの役にも立たなくなる。その時、彼らは怒り狂った群衆から逃げなければならない。そしてその時、彼らの財産は、現代の真理の働きを推進するために用いることができないからである。聖徒たちが、悩みの時がやってくる前にすべての邪魔物を切り捨てて、犠牲によって神と契約を結ぶことが、神のみこころであることを、わたしは示された。もし彼らが、財産を祭壇の上において、なすべき務めについて、熱心に神に祈り求めるならば、神は、これらのものをいつ処理すべきかを教えてくださる。そうすれば、彼らは悩みの時に自由になり、負担となる邪魔物がなくなる。

もし彼らが、財産に執着し、自分たちの義務について主に尋ねることをしないならば、主は彼らに義務を知らされない。そして、彼らは財産を持っていることを許される。そして、悩みの時に、それは彼らを押しつぶす山のように彼らの前にあらわれるだろう。そして彼らは、それを処分しようとするのであるが、もう、それはできないことをわたしは見た。わたしはある人々が次のように嘆くのを聞いた。『働きは衰微していた。神の民は真理に飢えていた。それなのに、われわれはその欠乏を満たそうとしなかった。今、われわれの財産は役に立たない。ああ、われわれはそれを手放して、天に宝を蓄えておいたらよかったのに。』わたしは、犠牲が増加せず減っていき、燃えつきるのを見た。また、神はすべての神の民が同じ時に、財産を処分することを望まれないことを見た。もし彼らが喜んで聞き従うことを望むならば、神は必要に応じて、いつ、またどれだけ売るべきかを示してくださるのである。過去において、再臨運動を支えるために、財産を処分するように要求された人々があった。またその反面、必要な時が来るまで財産を持っていることを許された人々もある。働きが必要とする時が来るならば、売ることが彼らの義務なのである。」(初代文集 127–129)

2. 霊的な戦いを遂行する

a. 初期教会の時代に、聖霊がエルサレムでどのように働いておられたかを見ることによって、なぜ奮起することができますか（使徒行伝 5:12–16）。

「個人的に努力をして、人々に近づいていくことが必要である。説教に用いる時間を減らし、個人伝道にもっと多くの時間を使うならば、さらに大きな結果をもたらすだろう。貧しい者を助け、病める者を看護し、悲しむ者、親しい人を失った者を慰め、無知な者に教え、経験がない者には助言を与えなければならない。わたしたちは泣く者と共に泣き、喜ぶ者と共に喜ぶべきである。納得させる力と祈りの力と神の愛の力が伴うならば、この働きが実を結ばずにおくはずはなく、必ず結ぶのである。

医事伝道事業の目的は、罪に悩む男女に世の罪を除くカルバリーの人を示すことであることを、わたしたちはつねに記憶していなければならない。キリストを見上げることによって彼らは変化し、キリストの姿に似てくる。わたしたちは病める者や苦しむ者を励まし、イエスを見上げるように仕向けなければならない。」（ﾐﾆｽﾄﾘｰ・ｵﾌﾞ・ﾋｰﾘﾝｸﾞ 115）

b. 魂の敵は、だれを個人的な利益のために恐れや嫉妬にかきたて、働きを中断させましたか。また今日これはどのようにして起こりますか（使徒行伝 5:17, 18）。

「あらゆる種類の群衆が使徒たちの説教を聞きに出てきて、イエスのみ名を通して自分たちの病気を癒してもらうが、そのみ名はユダヤ人の間で非常に憎まれていた。祭司や役人たちは、病人たちが癒され、イエスが命の君として高められるのを見て、半狂乱になって反対する。彼らはまもなく全世界がこのお方を信じ、彼らを力強い癒し主を殺した罪で訴えることを恐れる。」（聖化された生涯 62）

「すべての義の敵が、人々の啓発と教育のためになすべき働きを妨害しようとして、考案し得るかぎりのあらゆる策略を用いて、今なお働いて勢力を増大している。遅延は、サタンの有利に展開し、こうした遅れのために多くの魂が失われた。主は働きが遅れるのをお喜びにならない。」（伝道 309）

3. 神の介入と行動

a. 使徒たちが神のみわざをなすために投獄されたとき、主はどのように介入なさいましたか。またこのことから、何を学ぶことができますか（使徒行伝 5:19, 20）。

「天の神、宇宙の力強い統治者は、この問題をご自身の手中に引き受けられた。なぜなら、人間がご自分のみわざに反対して戦っていたからである。このお方は彼らにはっきりと、人の上に統治者がおられること、その権威は尊重されなければならないことを示された。主は牢獄の戸を開くために夜、ご自分の御使をつかわされた。そして彼は神がご自分の働きをなすよう任命しておられたこれらの人々を外に連れ出した。役人たちは「イエスの名によって語ることも説くことも、いっさい相成らぬ」と言った。しかし、神につかわされた天の使者たちは言った、『さあ行きなさい。そして、宮の庭に立ち、この命の言葉を漏れなく、人々に語りなさい』と言った（使徒行伝 4:18; 5:20）。

人々に法王制度の遵守を強制しようとして、神の権威を踏みにじる人々は、使徒たちの時代にユダヤ人指導者たちがしていた働きと似た働きをしているのである。地上の役人たちの律法が、宇宙の最高統治者の律法と反するようになるとき、そのとき、神に忠実な臣民たちは、このお方に対して真実なのである。

わたしたちは民として、神が自分たちにゆだねてくださった働きをなし遂げてこなかった。わたしたちは日曜休業令の施行がわたしたちにもたらす問題に準備ができていない。危険が近づいているしるしを見るとき、行動を起こすことがわたしたちの義務である。預言があらかじめ言っているからこの働きは進むはずである、主はご自分の民の防壁となってくださると信じて自らを慰め、悪を静かに傍観して座っていることがないようにしよう。わたしたちはもし静かに座って、良心の自由を守るために何もしないなら、神のみ旨を行っているのではない。非常に長くなおざりにされてきた働きをなし遂げることができるまで、この災難が延ばされるようにという熱心で効果ある祈りが天へ上るべきである。もっとも熱心な祈りがあるようにしよう。そしてわたしたちの祈りに調和して、働こう。」（教会への証 5 巻 713, 714）

b. 使徒たちは、神の任務に、どのように答えましたか（使徒行伝 5:21（前句））。その結果は何でしたか（21–26 節）。

「もし祭司や役人たちがあえて使徒たちに対する自分たちの感情を行動に移したなら、違った結果が記録されていたことであろう。なぜなら、神の僕たちに何か暴力が加えられるなら、神の御名を大いなるものとするために、神の御使がその場にいて見張っていたからである。」（牧師への証 71, 72）

4. 最高の従順を捧げる

a. 反対に直面したとき、わたしたちはペテロから何を学ぶべきですか（使徒行伝 5:27–29）。

「このふたりを滅ぼそうと躍起になっていた人々の前に、二度目に立ったときも、ふたりの言葉や態度には何の恐れもためらいも認めることができなかった。」（患難から栄光へ上巻 82, 83）

「わたしたちの国の法律が、シナイから神の聞こえる声で語られ、さらにその後、神ご自身の指で石に彫りきざまれたさらに高い律法に対立しない限り、あらゆる場合に従うことは、わたしたちの義務である。『わたしの律法を彼らの思いの中に入れ、彼らの心に書きつけよう。こうして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるであろう』（ヘブル 8:10）。神の律法が心に書きつけられた人は、人よりもむしろ神に従い、まもなく神の戒めから少しでも離れるよりは、すべての人に従わなくなるのである。」（教会への証 1 巻 361）

「エホバの十の規則があらゆる義であり良い律法の基礎である。神の戒めを愛する人々は国のすべての良い法律に従う。しかし、もし統治者の要求が神の律法に対立するならば、答えるべき問いはただ一つである。『われわれは神に従うのか、あるいは人に従うのか』。」（同上 361, 362）

b. 福音についてさらに使徒は何を説明しましたか。また、いかに聖霊を受けるかどの重大な秘訣を明らかにしましたか（使徒行伝 5:30–32）。

「魂も体も精神も神に捧げて、神の律法に従うことによって自分の思想を純潔にする人々は、たえず新しい肉体的な力と知的な力を授けられる。心は神を慕い、聖霊の務めと働きを識別するためにもっとはっきりとした知覚力を求めて真剣に祈るようになる。わたしたちが聖霊を用いるのではなく、聖霊がわたしたちを用いて、あらゆる能力を形成し、かたちづくるのである。」（安息日学校への勧告 41）

「わたしたちの前にはすべての教会で実行されるべき偉大な働きがある。信徒たちは徹底的に神へ献身し、神の聖なる律法の一点一画に対して従順を捧げるべきである。こうして彼らはこのお方と共に働く同労者となり、満ちみちた神のあらゆる徳に満たされる。自己尊重、利己的な精神は、人に最高位を求めさせるが、これは魂から捨て去らなければならない。あらゆる清くない野心は、脇へ置かれなければならない。」（原稿 162, 1905 年）

木曜日 *5月13日*

5.　　神聖な導き

a.　どのように主は円熟したパリサイ人の知恵を用いて、クリスチャンたちに対して怒っている議会を説得なさいましたか（使徒行伝 5:33-39）。わたしたちは、なぜこの結果に奮起することができるのですか（40–42 節）。

「弟子たちは富もなく、地位の低い人たちにすぎなかった。また、神のみことばのほかに武器もなかった。それでも彼らはキリストの力に満たされて、馬槽と十字架の驚くべき物語を語り、すべての反対に勝利するために出て行った。この世の名誉や承認がなくとも、彼らは信仰の英雄であった。彼らの唇から世界を揺さぶる生き生きとした聖なることばがほとばしり出た。」（患難から栄光へ上巻 78）

「過去において、キリストのために迫害を受けてきた人々が持っていた力は何であったのか。それは、神との一致、聖霊との一致、キリストとの一致であった。多くの者は、そしりと迫害によって、地上の友から引き離されたが、キリストの愛からは引き離されていなかった。魂が、あらしに悩まされ、真理のためにそしりを受ける時ほど、救い主の愛を深く受ける時はない。『わたしもその人を愛し、その人にわたし自身をあらわすであろう』とキリストは言われた（ヨハネ 14:21）。信者が真理のためにこの地上の法廷に立つ時、キリストは彼のそばにお立ちになる。彼が牢獄の中に閉じこめられる時、キリストは彼にあらわれてその愛によって彼の心を励まされる。彼がキリストのために死刑を受ける時、救い主は、人々は肉体を殺すことができても、魂を損なうことはできないのだと、彼に言われる。『勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている。』（ヨハネ 16:33）。」（同上 87, 88）

「わたしたちは喜んで自己を空にするときのみ、天の光を受けることができる。わたしたちはすべての思想をキリストの従順へととりこにすることに同意するときにのみ、神のご品性を識別し、信仰によってキリストを受け入れることができる。これをする者にはみな、制限なく聖霊が与えられる。」（主は来られる 117）

金曜日 *5月14日*

個人的な復習問題

1.　わたしたちは皆、自分の地上における所有物について、何を悟る必要がありますか。
2.　説教の他に、クリスチャンの伝道者としてのわたしたちの働きを述べなさい。
3.　主はなぜ使徒たちを牢獄から救出なさったのですか。
4.　地上の当局に対するわたしたちの義務、そしてわたしたちの創造主への義務を説明しなさい。
5.　ますますひどくなる迫害に直面するとき、いつも何を心に留めていなければなりませんか。

さらに大きな効果力を得る

「こうして神の言は、ますますひろまり、エルサレムにおける弟子の数が、非常にふえていき、祭司たちも多数、信仰を受けいれるようになった。」(使徒行伝 6:7)

「〔使徒行伝 6:7 引用〕。この魂の収穫は、使徒たちが一層自由に活動できたことと、七人の執事が熱意と力を示したおかげであった。」（患難から栄光へ上巻 92）

参考文献：　患難から栄光へ上巻 89–104

日曜日　*5 月 16 日*

1.　疑いがかきたてられる

a.　主が教会を成長させられたとき、サタンはどのようにひそかに堕落した人性に入り込み、不和と危機を引き起こしましたか（使徒行伝 6:1）。

「使徒たちの働きの結果改宗した人々の心は、クリスチャンの愛によって和らげられ、ひとつになった。以前には偏見をいだいていたにもかかわらず、だれもが互いに仲よくなった。サタンはこの一致が継続するかぎり、福音真理の進展を阻むことができないことを知っていたので、人々の以前の考えかたを利用して、それによって教会に不和の分子をもたらそうとした。

こうして、弟子たちの数が増していくにつれて、敵は、以前からしばしば信仰を持つ兄弟たちをねたましい思いでみつめ、霊的指導者たちのあらさがしをしていたことのある者たちの心に、疑いの気持ちをかき起こすことに成功した。そして『ギリシャ語を使うユダヤ人たちから、ヘブル語を使うユダヤ人たちに対して‥‥ 苦情を申し立てた。』つぶやきの原因は、ギリシャ語を使うやもめたちが日々の配給でおろそかにされがちだと、苦情を申し立てたことにあった。どんな不平等でも福音の精神に反するのはたしかなのだが、その主張のかげで既にサタンは疑いの気持ちをかきたてることに成功していた。」（患難から栄光へ上巻 89, 90）

2. 解決策が見つかる

a. 福音のメッセージを世に伝えるという使徒たちの働きが阻まれていましたが、これを防ぐために取られた過程から、わたしたちは何を学ぶべきですか（使徒行伝 6:2–4）。

「牧師は各教会の小さな問題を解決するために呼ばれていては、心を霊的に最高の状態に保つことはできない。これは、彼に委ねられた仕事ではない。神は、神の選ばれたメッセンジャーのすべての能力を用いようとしておられる。彼らの心は、夜の長い委員会によって、疲れ果ててはならない。なぜなら、神は、彼らがその頭脳のすべての力を用いて、キリスト・イエスのように明快、強力に福音を宣べ伝えることを望まれるからである。……

力強く説教する才能を持った牧師に、常に事務的な働きをさせるのは、大きな間違いである。み言葉を人々に伝える者は、あまり多くの荷を負ってはならない。……

み事業の財務は、有能な事務家によって、きちんと処理されなければならない。しかし、説教者や伝道者は、別の働きのために聖別されている。財務の処理は、福音の宣教のために聖別されていない人にやらせよう。」（伝道 119, 120）

b. 教会はこの考えにどのように応じましたか。またわたしたちはその結果として、どの恩恵を認めますか（使徒行伝 6:5–7）。

「この特別な仕事を監督するために七人が任命されたことは、教会に大きな祝福となった。この役員たちは教会の全般的な財政面だけでなく、個人の必要を慎重に考慮した。…

この方法が神のみむねにかなっていたことは、すぐによい結果があらわれたことでわかる。」（患難から栄光へ上巻 91）

「何年も主はわたしたちに賢明な人を選ぶように教えてこられた。すなわち、神に献身している人々、天の諸原則が何であるかを知っている人々、神と共に歩むということが何を意味するかを学んできた人々を選び、そして彼らをわたしたちの働きに関係した事業の問題を取り扱う責任の場所につけなさい。これは使徒行伝 6 章に概要が示された聖書の計画に一致している。わたしたちはこの計画を研究する必要がある。なぜなら、神がそれを承認しておられるからである。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1905 年 10 月 5 日）

3. 召しに従って生きる

a. 執事（時にこの肩書きが案内係や教会の財産管理者をさして誤って適用されていることがあるが、これは按手を必要とする特別な職務）の明瞭な資格を説明しなさい（テモテ第一 3:8–13）。

「この魂の収穫は、使徒たちが一層自由に活動できたことと、七人の執事が熱意と力を示したおかげであった。これらの兄弟たちは、貧しい人々の必要をかえりみるという特殊な務めをゆだねられたといっても、信仰の教えを説かないでよいわけではなかった。それどころか、彼らは他の人々に真理を教える十分な資格があり、実際熱心にこの働きに携わって成功をおさめたのである。

初代教会には、みわざを絶えず拡張する仕事がゆだねられていた。それは、キリストへの奉仕に進んで献身する正直な人々のいるところには、どこにでも光と祝福の中心を設けることであった。」（患難から栄光へ上巻 92）

b. わたしたちは皆、ステパノを特別に執事としての召しに効果的な者とした資質から、何を学ぶことができますか（使徒行伝 6:8; テモテ第二 2:15）。

「ステパノ は七人の執事のうち第一のものであって、信心深く、幅の広い信仰をもった人であった。彼はユダヤ人であったが、ギリシャ語を話し、ギリシャ人の習慣や風習をよく知っていた。そこで彼は、ギ リシャ系ユダヤ人の会堂で福音を宣べ伝える機会を見いだした。ステパノは実に活発にキリストのみわざのために働いて、大胆に信仰を表明した。博学なラビや律法学者たちは容易に勝利できるとうぬぼれて、人々の前で彼と議論した。しかし『彼は知恵と御霊とで語っていたので、それに対抗できなかった』。」（同上 100）

「真理の恵みと知識に成長するために、働き人たちは様々な経験を持たなければならない。これは働きか拡張され、新しい伝道地、様々な地元で、彼らがあらゆる階級のさまざまな思いを持った人々と接触し、多くの様々な思いを持つ人々の必要に答えるために要求される様々な種類の働きのあるところで最も良く得ることができる。これによって真の働き人は人々の必要に答える資質を得るために、光、力、知識を求めて神と聖書へと駆り立てられる。」（教会への証 2 巻 642）

「神の御霊は、人々の思いと心に働きかけておられる。そしてわたしたちはそれに調和して働かなければならない。」（同上 6 巻 55）

4. 迫害は驚くにあたらない

a. 妬みという苦い胆汁で沸き立ち、魂の敵は、どのようにステパノに対して偽りの反対をかきたてましたか（使徒行伝 6:8–14）。

「ステパノは、信仰に満ちあふれて、人々の間で、大きなしるしや奇跡を行っていた。ユダヤの指導者たちは、祭司たちが彼らの言い伝えを捨て、犠牲や供え物を捨てて、イエスを大いなる犠牲として受け入れているのを見て、非常な怒りに燃えた。ステパノは、上からの力をもって、不信仰な祭司や長老たちを譴責し、彼らの前でイエスを高めた。彼らは、彼の語る知恵と力に対抗することができず、彼に対して何一つ打ち勝つことができないことを悟ると、彼がモーセと神に対して不敬な言葉を語ったという偽りの証言をさせるために、人々を買収した。」（初代文集 332）

b. わたしたちの主人は、このようなことをどのように警告しておられましたか。そして詩篇記者のどの言葉がわたしたちに希望をもたらすことができますか（マタイ 10:16, 17; 詩篇 31:18–20）。

「人の心は、今日、キリストが地上におられた時よりもやわらげられているわけではない。ちょうどキリストが地上におられたときに、民がキリストに対してしたように、キリストのしもべにとってできるかぎり困難にしようと、大敵を助けるために、自分たちの力でできることは何でもしている。彼らは中傷や偽りの舌をもって苦しめるであろう。彼らは神の僕に敵対し、神が彼らにさせようとしておられる努力そのものを批判するであろう。彼らはその邪推で、まったく正しく完全な正直さが存在するところに、不正と不正直を見るであろう。神ご自身が神の僕たちを導いておられるときに、また彼らがもし神が要求なさるなら、もしそうすることによって神のみ事業が前進するのであれば、自分たちの命さえ捧げようとしているときに、彼らは神の僕たちの利己的な動機のせいにするであろう。」（教会への証 4 巻 234）

c. ステパノが告発されたとき、注目すべきだったことは何ですか（使徒行伝 6:15）。

「キリストのみ顔から出る栄光の光はステパノの上に照り輝き、敵でさえ彼の顔が天使の顔のように輝いているのをみとめた。」（青年への使命 107）

木曜日 *5月20日*

5.　殉教を通して証する

a.　ステパノがヘブル国家の反逆的な歴史の広範にわたる概要を率直にまとめた後、議会の反応を述べなさい（使徒行伝 7:51–57）。自分の怒りによって、彼らはどこまで導かれましたか（58, 59 節）。

b.　なぜわたしたちの心は、この話の結末によって温められることができるのですか（使徒行伝 7:60）。

「どの時代にも神が選ばれた使者たちは、ののしられ、迫害された。しかしその苦難を通して神の知識が広まったのである。キリストの弟子はみなこの列に加わり、預言者たちと同じ働きを推し進めなければならない。そして敵は真理に逆らっては何一つなし得ず、むしろ真理のためになっていることを覚えるべきである。侮辱のことばが浴びせられても、神は真理が前面に出され、検討と論議の主題になるよう意図しておられる。人々の心をゆり動かさなければならない。あらゆる論争、あらゆる非難、良心の自由を束縛するあらゆる企ては、ともすれば眠りをむさぼりがちな人心を目ざめさせる神の手段である。

このような結果は、神の使者たちの生涯の中に何度もみられた。かの高貴で雄弁なステパノがサンヒドリン議会の扇動によって石で打ち殺された時、福音事業は何らの損失もこうむらなかった。ステパノの顔に輝いた天の光と彼の臨終の時の祈りに聞かれた神のようなあわれみなどは、そこに立っていた頑迷な一議員の罪を指摘する鋭い矢のようなものであった。」（祝福の山 41, 42）

金曜日 *5月21日*

個人的な復習問題

1.　敵はどのように愛の行為の中にさえ、その醜い頭をもぐり込ませていますか。
2.　なぜ地元の教会にとって、執事職の按手は非常に助けとなるのですか。
3.　もし執事として召されなかったとしても、わたしはステパノから何を学ぶことができますか。
4.　この教訓を考えるとき、わたしがだれかについて語るとき、どれほど注意しなければなりませんか。
5.　ステパノの働きは短くされたにもかかわらず、その結果には大きな価値があったのですか。

サマリヤへと進む

「そこでピリポが駆けて行くと、預言者イザヤの書を読んでいるその人の声が聞えたので、『あなたは、読んでいることが、おわかりですか』と尋ねた。」（使徒行伝 8:30）

「ピリポとエチオピア人の経験の中に、主がご自分の民に求めておられる働きが提示されている。エチオピア人は、ピリポのような伝道者たち、すなわち神のみ声を聴いて、遣わされるところへ行く伝道者たちを必要としている大部分の種類の人々を表している。世には聖書を読んでいるが、その重要性を理解できない人々がいる。神の知識を持っている男女がこれらの魂のみ言葉を説明するために必要とされている。」（教会への証 8 巻 58）

参考文献：　患難から栄光へ上巻 104–116

日曜日　*5 月 23 日*

1.　見当違いの激しい怒り

a.　ステパノが石で撃ち殺された後、教会はどの苦境に陥りましたか。また、その主な原因はだれでしたか（使徒行伝 8:1–3; 26:9–11）。

「ステパノの裁判と死の光景を見て、サウロはあらあらしい熱意を吹きこまれたように見えた。そののちサウロは、ステパノが人々から屈辱を受けていた、まさにその同じときに、神からは名誉を与えられていたことを、ひそかに認めている自分に腹を立てた。サウロは神の教会を迫害しつづけ、信者の家々に押し入って、彼らを捕らえ、投獄し殺すために祭司や役人のもとへ引っ立てて行った。この迫害を推進させるサウロの熱狂ぶりは、エルサレムのクリスチャンを恐怖のどん底に陥れた。ローマの官憲はこの残酷な事態を食い止める努力をいっこうにせず、ユダヤ人たちと和解し、彼らから好意を得るためにひそかに彼らを助けた。

ステパノの死後、サウロはその迫害でたてた功績のおかげで、サンヒドリンの一員に選ばれた。一時、彼は神のみ子への反逆をなし遂げようとするサタンの手中で力強い器となって働いたが、それからまもなく、この情け容赦ない迫害者は、そのとき彼が荒らしていた教会の発展のために用いられることになった。」（患難から栄光へ上巻 104–106）

2. 迫害に直面した時

a. 激しい迫害を受けて、教会は何をしましたか。また、このことからわたしたちは今日何を学ぶべきですか（使徒行伝 8:4; マタイ 10:21–23）。

「主は言われた、『あなたがたは必ずわたしの安息日を守らなければならない。これはわたしとあなたがたとの間の、代々にわたるしるしである』る（出エジプト記 31:13）。だれも迫害をまぬかれるためにこのお方のご命令に従わないことがあってはならない。かえってすべての人は次のキリストの言葉を考えなさい、『一つの町で迫害されたなら、他の町へ逃げなさい』（マタイ 10:23）。もし避けられるなら、反キリストの精神を持って働いている人々の力のうちに自らの身を置いてはならない。真理のために喜んで苦しむ人々を圧迫や残酷さから救うためにわたしたちができることはすべてなすべきである。

キリストがわたしたちの模範であられる。天で自分が始めた反逆を実行しようとする反キリストの決意は、不従順の子らのうちに働き続ける。第四条の戒めに従う人々に対する彼らの妬みと憎しみはますます苦々しさを増していく。しかし神の民は自分の旗印を隠さない。彼らは神の戒めを無視することはしない。また安楽な時を得るために、悪を行う群衆と共に行くことをしないのである。…

自分の命を救うために神を捨てる人々は、神から捨てられる。真理を放棄することによって自分の命を救おうとするとき、永遠の命を失うのである。」（教会への証 9 巻 230）

b. どの時代を超えた原則が、終わりの時までもちこたえますか（伝道の書 11:1, 2）。

「恩恵期間が続く限り、文書伝道のために働く機会がある。宗教的な教派が神の民を圧迫するために結合し、宗教的な自由がある場所は、文書伝道によって開かれる。もし一か所での迫害が激しくなったら、働き人たちはキリストがお命じになったようにしなさい、『一つの町で迫害されたなら、他の町へ逃げなさい』。もし迫害がそこに来たら、さらに別の場所へ行きなさい。神はご自分の民を導かれ、彼らを多くの場所で祝福となさる。迫害がなければ、彼らはそれほど広く真理を宣布するために外国へ散らされることはなかったであろう。…天で『すべてが終った』という言葉が語られるまで、いつも働きのための場所があり、またメッセージを受け入れる心がある。」（同上 6 巻 478）

3. 新しい安全な避難所

a. ピリポは伝道者として、どこへ行きましたか。またどのような結果がありましたか(使徒行伝 8:5-8)。これは一見希望がないように見える場所にいる魂について、何を明らかにしていますか。

「救い主がご自分でサマリヤに行かれたことや、のちになってよきサマリヤ人をほめられたことや、十人のらい病人の中で一人だけキリストにお礼を言いにもどってきたあのサマリヤ人の感謝とよろこびなどは弟子たちにとって意味深いものだった。その教訓は、彼らの胸の奥底にきざまれていた。イエスが昇天される直前に弟子たちにお与えになった任務の中に、彼らが最初に福音をのべ伝える場所としてエルサレム、ユダヤとともにサマリヤの名をイエスはおあげになった。イエスの教えは、彼らがこの任務を達成する準備となっていた。主の名によってサマリヤに行った時、彼らは、人々が自分たちを受け入れるばかりになっているのを発見した。サマリヤ人は、キリストの称賛のことばと、自分の国の人たちに対するキリストのあわれみのみわざについてすでに聞いていた。彼らがイエスに無礼な応対をしたにもかかわらず、イエスが彼らに対して愛の思いしかいだいておられないことを知って、彼らの心はとらえられた。キリストの昇天後、彼らは、救い主の使者たちを歓迎し、弟子たちは、かつて彼らにとって最もにがにがしい敵であった人々の中からとうとい収穫を集めた。」(各時代の希望中巻 288, 289)

「エルサレムから追われた弟子たちの中には、サマリヤに安全な避難所を見いだした者もいた。」(患難から栄光へ上巻 112)

b. そこであった一つの他とは独特なバプテスマの物語を述べなさい (使徒行伝 8:9–13)。

「普通、悪霊につかれた者は非常に苦しむものとされているが、その例外もあった。超自然の力を得るために、サタンの影響力を歓迎するものがある。このような人々には、悪霊との戦いはもちろんない。この種の人々に、占いの霊につかれた者たち、すなわち、魔術師シモンや魔術師エルマ、また、ピリピでパウロとシラスのあとを追ってきた娘などがある。」(各時代の大争闘下巻 257)

c. なぜペテロやヨハネの援助が今それほど重要だったのですか (使徒行伝 8:14–17)。

「〔使徒行伝 8:14 引用〕。神の御霊は魂を啓発するために、そして彼らが真理に改心するのを待っていた。」(教会への証 8 巻 57)

4. 巧みに操る妄想

a. どのように、バプテスマを受けて教会員となっていた魔術師シモンに内在する精神が表れましたか。またわたしたちはキリストの名を誤用するこの種のオカルト心霊術について、どのように警告されていますか（使徒行伝 8:18–24; 黙示録 16:13, 14）。

「み言葉を信じる信仰によって、神の力に守られている者を除いて、全世界は、この惑わしの隊列の中にまきこまれる。人々は致命的な安心感へと急速に誘い込まれているので、神の怒りが降下して初めて目をさますのである。」（各時代の大争闘下巻 317）

「まもなく、超自然的な恐ろしい光景が、奇跡を働く悪鬼たちの力のしるしとして天に現われるであろう。悪霊たちは地の王たちのところと全世界とに出て行って、彼らを欺瞞の中に閉じ込め、天の統治に対するサタンの最後の闘争に加わるようにかり立てる。これらの手先によって、為政者も国民も一様に欺かれる。自分はキリストであると称する者たちが現われ、世の贖い主のものである称号と礼拝とを要求する。彼らは不思議ないやしの奇跡を行ない、聖書のあかしとは相反する啓示を天から受けたと公言する。

欺瞞の一大ドラマの最後を飾る一幕として、サタンはキリストを装うであろう。教会は、救い主の来臨を教会の望みの完成として期待していると長い間公言してきた。今や大欺瞞者は、キリストがおいでになったように見せかける。地上のあちらこちらで、サタンは、黙示録の中でヨハネが述べている神のみ子についての描写に似た、まばゆく輝く威厳ある者として人々の中に現われる（黙示録 1:13–15 参照）。……やさしい同情のこもった調子で、彼は、救い主が語られたのと同じ祝福に満ちた天の真理を幾つか述べる。彼は人々の中の病人をいやし、それから、キリストらしくみせかけながら、安息日を日曜日に変えたことを主張し、すべての人に対して、自分が祝福した日を聖とするようにと命じる。彼は、あくまでも第七日をきよく守り続ける者は、光と真理とをもって彼らに遣わされたわたしの天使たちの言うことを聞かないで、わたしの名を冒涜している者だと宣言する。これは強力な、ほとんど圧倒的な惑わしである。魔術師シモンに欺かれたサマリヤ人のように、多くの人々は、小さい者から大きい者にいたるまで、これらの魔術に心を奪われて、この人こそは『大能』と呼ばれる神の力」であると言う（使徒行伝 8:10）。」（同上 398, 399）

木曜日　5月27日

5.　わたしたちのための模範

a.　聖霊がピリポを、彼の与えることのできる答えを必要としていたまじめな魂へと導かれた方法から、わたしたちはどのように積極的な動機が与えられますか（使徒行伝 8:26–31, 35）。

「神がピリポに彼の働きを指し示されたとき、その弟子は『主は本気で言われたのではない』とは言わなかった。そうではなく、『彼は立って出かけた』。彼は神のみ旨に従うという教訓を学んでいた。彼はすべての魂が神の御目には尊いということ、また御使たちが光を求めている人々を、彼らを助けられる人々と接触させるためにつかわされていることを悟っていた。…

聖霊は神が召されるところへ行き、神が与えてくださった言葉を語る用意のできている人々を導き、指導なさる。…

あなたは弱く、過ちがあり、罪深いかもしれないが、主はあなたにご自分との共労者となる申し出を提供してくださる。このお方は神の指示の下へ来るようあなたを招いておられる。キリストと一致して、あなたは神の働きをなすことができる。『わたしから離れては、あなたがたは何一つできないからである』。預言者イザヤを通して次の約束が与えられている、『主はあなたがたの前に行き、イスラエルの神はあなたがたのしんがりとなられるからだ』。

「生ける神の諸教会であるあなたがたは、この約束を研究しなさい。そしてあなたの信仰や霊性、神聖な力の欠如が、いかに神の御国の到来を妨げているかを考えなさい。もしあなたがキリストの働きをなすために出て行くならば、神の御使はあなたの前に道を開き、福音を受け入れるために心を整える。あなたがた一人びとりが生ける伝道者であれば、この時代のためのメッセージはすべての国々、すべての民族、国民、国語へと宣布されるのである。これはキリストが力と大いなる栄光のうちに来られる前になされなければならない働きである。わたしは教会に熱心に祈るように呼びかける。それはあなたがたが自分の責任を理解することができるためである。あなたがたは個人個人が神と共に働く共労者であろうか。もしそうでなければ、そうなろうではないか。あなたは天から定められたあなたの働きを本気でなすつもりだろうか。」（ﾚﾋﾞｭｰ・ｱﾝﾄﾞ・ﾍﾗﾙﾄﾞ 1911 年 3 月 2 日）

金曜日　5月28日

個人的な復習問題

1.　人が天から送られる光に抵抗しているとき、時に何が起こりますか。
2.　ある場所で困難に直面するとき、神はわたしに何を告げておられるかもしれませんか。
3.　真理に対して開かれているかもしれないわたしの近くの「サマリヤ」は、どこにありますか。
4.　どのような方法によって、魂の敵は、民をわなにかけるために心霊術を用いますか。
5.　神がピリポにお与えになったような機会を、わたしはどのように求めますか。

安息日 2021 年 6 月 5 日

第一安息日献金
コンゴ民主共和国における本部のために

「コンゴ民主共和国（旧ザイール）は中央アフリカにある広大な国で、2,345,410 平方キロメートル（905,568 平方マイル）の国土があり、サハラ以南のアフリカでは最大、またアフリカでは第二の国、世界では 11 番目に大きな国となっています。生物が多様な地で、耕作地が 8000 万ヘクタールほど、また 1,100 種を越える一覧に掲載された鉱物や貴金属があり、国境は 9 カ国と接しています。北は中央アフリカ共和国とスーダン、東はルワンダ、ブルンジ、タンザニアとウガンダ、にしはコンゴ共和国、南はアンゴラとザンビアです。

今後の人口はおよそ 90,000,000 人に近くと推定されます。このうちブリタニカ百科事典によると、およそ 4 分の 3 がキリスト教を告白しています。その内訳は、33% ローマ・カトリック、20% プロテスタント、22% 目覚めた教会／クリスチャン・リバイバル、2% サルティステ , 2% イスラム教 , 10% その他の宗教、11% 無信仰です。

改革運動のメッセージは 1972 年にカタンガ件で始まり、1990 年とさらに 2000 年に飛躍的に発展し、そのときに世界総会はそこをミッションとして組織しました。さらに 2012 年にミッションのユニオンとなり、働きは速やかに前進しています。

コンゴ民主共和国は本部の建物を必要としています。組織は現在、一軒家を賃貸しています。この現実的な必要を考え、わたしたちは、主が皆さんの心に触れ、わたしたちの状況を考えてくださるようお祈りします。どうぞこの安息日に、皆さんの献金や捧げ物を通して皆さんの資金を惜しみなく分け与えてくださり、わたしたちの神様の栄光のために、首都キンシャサにしかるべき土地を確保し、また改革の代表となる本部事務所と教会のため、美しい記念塔を建設することができるようにしてください。

皆さんに次の通り、わたしたちの主イエス・キリストの言葉を覚えていただき、世界中の兄弟姉妹の皆さんにこの事業を助けて下さるようお願いします。「受けるよりは与える方が、さいわいである」（使徒行伝 20:35）。神様が、コンゴ民主共和国における伝道の働きのための皆さんの惜しみない心を豊かに報いて下さいますよう、先だってお祈り申し上げます。

同情と憐れみの神様が皆さんを祝福して下さいますように。

コンゴ民主共和国ユニオンの兄弟姉妹より

サウロの明け渡し

「さあ立って、町にはいって行きなさい。そうすれば、そこであなたのなすべき事が告げられるであろう。」（使徒行伝 9:6）

「われわれ自身の将来の幸福も、他の魂の救いも、今われわれが歩いている道にかかっている。われわれは真理のみ霊によって導かれる必要がある。キリストに従う者はみな、『主よ、わたしは何をしたらよいでしょうか』と熱心にたずねるべきである。」（各時代の大争闘下巻 369）

参考文献：　教会への証 3 巻 428–434

日曜日　*5 月 30 日*

1.　変化させる光

a.　サウロの苦悩と、どのようにキリストが良心のとげに対して蹴る（参照：使徒行伝 9:5 欽定訳）彼の霊的な盲目をとらえて下さったかを説明しなさい（エレミヤ 17:5; 使徒行伝 9:1–5）。

「真理に抵抗する思いは、すべてをゆがんだ光のうちに見る。その思いは敵の確実な労苦のうちにしばられ、物事を敵の光のうちに見るのである。

タルソのサウロはその例であった。彼には不信者となる道徳的な資格はなかった。しかし、彼は神の勧告よりも人の意見を受け入れることを選んでいた。彼にはメシヤを指し示す預言があったが、ラビたちの格言、人の言葉が優先された。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1057）

「彼は敵に対するステパノの忍耐強さとゆるしを目撃した。サウロはまた、自分が責め苦しめた多くのものが示した不屈の精神と、よろこんで耐え忍ぶ姿を見た。彼はあるものたちが信仰のために、いのちさえよろこんで捨てるのを見たのである。

これらすべてのことが声を大にしてサウロの心を動かし、時には、イエスこそ約束のメシヤだという、抗しがたい確信が彼の心を突き通した。」(患難から栄光へ上巻 121, 122)

2. 今日も繰り返される召し

a. わたしたちは皆、真面目な魂を救うために、いかに主が突然、人生の一連の出来事の向きを変えることがおできになるかということから、何を学ぶべきですか(エレミヤ 10:23, 24)。

「〔サウロ〕は、良心的にナザレのイエスのみ名に反対して多くのことをしてきた。彼はその熱心さのうちに、キリスト教会を辛抱強く熱心に迫害する者であった。」(教会への証 3 巻 429)

「キリストのしもべは、福音をただ論争とあざけりの種にしかしようとしない人々によって妨げられてはならない。

しかし、救い主は、いかに罪に落ち込んでいようと、喜んで天の尊い真理を受け入れる者を、決してお見捨てにならなかった。取税人や遊女にとって、主のみことばは新しい生涯の始めであった。主が七つの悪鬼を追い出されたマグダラのマリヤは、救い主の墓に最後までいた者であり、復活の朝、主が語りかけられた最初の人であった。キリストの献身的な伝道者パウロとなったのは 、福音の断固たる敵であったタルソのサウロであった。表面は、憎悪と侮蔑を現わしている態度のかげに、また罪や堕落のかげにさえも、キリストの恵みによって救われて、贖い主の冠に宝石のように輝く魂が隠されていることもあるのである。」(祝福の山 161)

b. どの命に関わる質問をもって、わたしたちは皆、自分の人生の各段階において深いへりくだりと完全な明け渡しのうちに、自分たちの造り主の前にひざをかがめる必要がありますか (使徒行伝 9:6)。

「神は再びあなたを後ろから呼びかけておられる。このお方は、あなたのように利己心にくるまれ、この世のわずらいに覆われているあなたの心に触れようと求めておられる。このお方はあなたの愛情を世から引っ込めて、天の事柄の上に置くようにと招いておられる。神のみ旨を知るためには、あなたは自分の傾向や、自分自身の思いが生来向かおうとするものよりも、神のみ旨を研究しなければならない。『あなたはわたしに何をおさせになりたいのですか』というのが、あなたの心の熱心な切望する質問であるべきである。」(教会への証 4 巻 53, 54)

「あなたのために非難、侮辱、嘲りに苦しまれたお方に尋ねなさい、『主よ、わたしに何をおさせになりたいのですか』。だれ一人、あまりに高い教育を受けてへりくだったキリストの弟子になれない者はいない。自分の生涯と学識の最上のものを、それらを与えて下さったお方にお捧げすることを特権だと感じる人々は、最高の奉仕において、神のゆだねてくださったタラントをお返しするために、どんな働きも、どんな犠牲も避けることをしない。」(同上 5 巻 584)

3. 神の教会へ送られる

a. わたしたちは皆、誇り高い宗教人であったサウロが神と人の前に深くへりくだった方法から、何を学ぶべきですか（使徒行伝 9:7, 8）。

「パウロはイエスの信仰が神の律法、犠牲制度の宗教的な礼拝、割礼の儀式、すなわち過去においては神の完全な承認を受けていたものを無効にしたと本当に信じていた。しかし、奇跡的なキリストの啓示が、彼の思いの暗くなった部屋に光を射し込む。彼が全力で反対していたナザレのイエスこそ、世の贖い主であられる。…

「キリストは彼を、それまで非常に激しく迫害していた弟子たち当人のところへ、彼らから学ぶためにつかわされる。天来の輝きの光はパウロの視力を奪っていた。しかし、イエス、すなわち盲人の偉大な癒し主は、それを回復なさらない。」（教会への証 3 巻 429, 430）

「パウロにとって、自分がいつも自分の力を真理に反対するために用いていたのだということを知ることは、なんという屈辱であったことであろう。神の奉仕をしていると思いながら、キリストを迫害していた。…彼の良心は目覚めて、今や自己を責める取り組みをもって働いていた。彼の働きの熱心さ、神の使命者たちを通して彼の上に輝いた光に対する真剣な抵抗が、今や彼の魂に激しい非難をもたらし、彼は苦い悔恨に満たされた。彼はもはや自分を義人とはみなさず、思想と精神と行いとにおいて、律法によって有罪宣告を受けているのを見た。彼は自らを罪人、しかも自分が迫害してきた救い主がいなければ、まったく失われてしまった罪人であることを見た。」（SDA ﾊﾞｲﾌﾞﾙ・ｺﾒﾝﾀﾘ [E･G･ﾎﾜｲﾄ・ｺﾒﾝﾄ]6 巻 1058）

b. サウロの盲目のうちにあった経験を述べなさい（使徒行伝 9:9）。

「その間、サウロはただひとり引きこもって、深く心を探りへりくだった。…

サウロは聖霊の罪を認めさせる力に全く屈服したとき、自分の人生の過ちを知り、神の律法の広範囲に及ぶ要求を認めた。自分の良い働きによって義とされると確信していた高慢なパリサイ人であった彼は、いま謙遜に幼な子のように単純な気持ちで神のみ前にぬかずき、自己の無価値さを告白し、十字架にかけられ、よみがえられた救い主の功績を、自分のために懇願した。」(患難から栄光へ上巻 124, 125)

4. 行動のため準備ができている

a. キリストとアナニヤの間の澄んだ通信を注目しなさい（使徒行伝 9:10–16）。

「各自は偉大な教師によって教えられることにおいて、個人的な経験と、神との個人的な通信を持つべきである。」（牧師への証 486）

b. アナニヤとダマスコの教会が、新しい信徒としてサウロ（今はパウロ）に奉仕したやさしい神を恐れる方法を述べなさい（使徒行伝 9:17–19）。

「こうしてイエスは組織されたキリスト教会の権威を承認し、サウロを地上でご自身が任命された機関である教会に引き合わされた。」(患難から栄光へ上巻 128)

c. パウロがバプテスマの後に取った段階と、また彼が直面した試練をあげなさい（使徒行伝 9:20–25）。

「パウロはダマスコの川でアナニヤからバプテスを受けた。彼はそれから食べ物によって力を受け、ただちに町にいる信徒たち、すなわちエルサレムから滅ぼす目的のために彼を取り分けたまさにその当人たちにイエスを宣教し始めた。彼はまた死に処せられたイエスこそ、まことに神の子であったことを、会堂で教えた。預言からの彼の論拠はあまりに決定的で、彼の努力には神の力が伴っていたので、反対するユダヤ人たちは狼狽し、彼に答えることができなかった。」（パウロの生涯からのスケッチ 32）

「パウロは自分の信仰の変化は、衝動や熱狂にかりたてられたものではなく、抵抗できない証拠によってなし遂げられたものであると述べた。…

多くの人々は彼の説教に応じることを拒み、心をかたくなにした。やがて、パウロの改心に対する彼らの驚きは、イエスに示したような憎しみに変わった。」（患難から栄光へ上巻 132）

「彼らは、パウロを殺すことが唯一の安全な方法であるということに、意見が一致した。しかし、神は、彼らの考えを知っておられて、天使たちを送って彼を守り、彼が生きて、その任務を果たすことができるようにされた。」（初代文集 339）

d. なぜパウロは荒野へ行ったのですか（ガラテヤ 1:17; 詩篇 119:10（前句））。

木曜日　6月3日

5.　試練と摂理

a.　アラビヤに一人でいた3年後に、どのような思いがけない苦痛に直面しましたか。また助けるために神はだれをお用いになりましたか（使徒行伝 9:26, 27）。

「〔バルナバ〕は、完全にパウロを信じ、受け入れ、彼の手を取って使徒たちのところへ連れて行った。彼は自分が聞いたばかりの経験を話した。…

使徒たちはもはやためらわなかった。彼らは神に抵抗できなかった。ペテロやヤコブ、すなわちそのときエルサレムにいた唯一の使徒たちは、かつての自分たちの信仰の激しい迫害者に、同胞としての右手を差し出した。また彼はかつて恐れられ、避けられていたほどに、今や大いに愛され、尊重された。」（預言の霊3巻321）

b.　パウロの圧倒的な反駁の余地のない訴えに、まもなく何が必要になりましたか。それでいながら、わたしたちはどのようにその中に神の愛のみ手を認めますか（使徒行伝 9:28–31; 22:17–21）。

「〔パウロ〕は、彼が自分の兄弟たちと別れなければならないことを知り、彼の心は悲しみで満たされた。彼はもしそれによって彼らが真理の知識へと導かれることができるなら、喜んで自分の命を手放したことであろう。ユダヤ人たちは彼の命を取ろうと計画し始めた。そして弟子たちは彼にエルサレムを去るよう強く訴えた。しかし、彼はその場所を離れることに気が進まず、居残って、少しでも長く自分のユダヤ人の兄弟たちのために労しようと切望した。…

兄弟たちがパウロの幻と彼に対する神の保護を知ったとき、パウロのための彼らの心配はますます増した。なぜなら、彼は実に主の選ばれた器であり、真理を異邦人に伝えるべきであることを悟ったからである。彼らは彼の暗殺を恐れて、エルサレムから彼をひそかに逃亡させるために急いだ。」（同上 321-323）

金曜日　6月4日

個人的な復習問題

1. **生涯のどの分野において、わたしは良心のとげに対して蹴っているかもしれませんか。**
2. **わたしの接触の領域において、わたしはだれを十分評価しない危険がありますか。**
3. **神はわたしをもっと効果的な器とするために、どのようにわたしをへりくだらせようとしておられるかもしれませんか。**
4. **サウロとアナニヤの関係は、教会について、わたしたちに何を教えますか。**
5. **わたしは、パウロのように、神が他の所へ行かせたいと思っておられるときに、どこかで長居しているかもしれませんか。**

外にいる「世俗的な人々」のための希望

「このように、わたしたちが主イエス･キリストを信じた時に下さったのと同じ賜物を、神が彼らにもお与えになったとすれば、わたしのような者が、どうして神を妨げることができようか。」（使徒行伝 11:17）

「わたしたちにとって、光を求めて祈っている魂のための神の同情とやさしい愛を考えることは、わたしたちの働きにおいて大きな励ましとなるべきである。」（教会への証 6 巻 79）

参考文献：　患難から栄光へ上巻 140–153, 166–171
教会への証 6 巻 76–84

日曜日　*6月6日*

1.　ルダとヨッパにおいて

a.　ルダに訪問したペテロの経験を述べなさい（使徒行伝 9:32–35）。

b.　わたしたちは皆、なぜヨッパでの奇跡によって励まされることができますか。またなぜドルカスのような肢体である教会員は体組織にとってそれほど有用なのですか（使徒行伝 9:36-43）。

「ヨッパにはドルカスがいた。彼女の器用な指は、彼女の舌よりもっと活動的であった。彼女はだれに快適な服が必要であり、だれに同情が必要であるかを知っており、両方の種類の必要に惜しみなく仕えた。そしてドルカスが死んだとき、ヨッパの教会は自分たちの損失を自覚した。彼らが嘆き悲しんだのも、また温かい涙が、動かなくなったちりの上に落ちたのも、不思議ではなかった。彼女は非常に価値があったので、神の力によって敵の地から連れ戻された。それは彼女の技能と精力がなお他の人々の祝福となることができるためであった。

これらの神の聖徒たちが持っていたこのような忍耐強い、祈りに満ちた辛抱強い忠誠はまれである。それでいながら、教会はそれなしに繁栄することはできない。…いつも確固とした神を恐れる働き人たち、すなわち逆境にも弱らない働き人たちが求められている。」（教会への証 5 巻 304）

2. 真心から求める人

a. コルネリオとはだれでしたか。そしてなぜ神は彼にお語りになったのですか（使徒行伝 10:1–8）。

「コルネリオはローマの百卒長であった。彼は金持ちで高貴の生まれであったし、責任と名誉のある地位についていた。彼は異教徒の生まれで異教の訓練と教育を受けていたが、ユダヤ人との接触によって神のことを学び、心から神を拝して、貧しい人々をあわれむ行為によって、その信仰の偽りないことをあらわしていた。彼の慈善行為は遠くまで知れわたり、その正しい生活によってユダヤ人の間にも異邦人の間にも評判がよかった。彼は接触するすべての者によい感化を及ぼした。…

彼は神を天地の創造主として信じていたので、神を敬いその権威を認め、生活のどんなことにも神のみこころを求めた。彼は家庭生活にも職務の上でも主に忠実であった。」（患難から栄光へ上巻 141 ～ 142）

b. 一方、ヨッパでは、食物を象徴として（しかし実際の食物に言及したのではなく）、どのような重要な教訓がペテロに与えられ、また終末に至るまでクリスチャンによって掲げられるべきですか（使徒行伝 10:9–16, 28, 34, 35）。

「わたしたちの隣人は、単に自分の教会の一員であるとか、わたしたちと信仰を同じくする者とかいうのではないことをお教えになった。そこには、人種、皮膚の色、または階級の差別がない。わたしたちの隣人とは、わたしたちの助けを要するすべての人をいうのである。わたしたちの隣人は、敵に出会って傷つけられたすべての魂である。わたしたちの隣人は、神の財産であるすべての人である。」（キリストの実物教訓 353, 354）

c. 主はどのようにペテロを、コルネリオと彼のグループへカイザリヤで家庭聖書研究会を行うためにお遣わしになりましたか（使徒行伝 10:19–22, 27）。

d. ペテロは何を教えましたか（使徒行伝 10:36–43）。

「アダムに与えられた約束から、父祖の家系と律法の制度とを通じて、天の輝かしい光はあがない主の足跡を明らかにした。」（各時代の希望上巻 260）

3.　神の召しを認める

a.　コルネリオとそのグループは、どのように実を結び、彼らがその当時の現代の真理を完全に受け入れた証拠を明らかにしましたか。また何が彼らにバプテスマの資格を与えましたか（使徒行伝 10:44–48）。

b.　コルネリオに対する伝道の後、ペテロはユダヤにいる自分の兄弟たちからのどのような苦情に対応しなければなりませんでしたか（使徒行伝 11:1–3）。

「ユダヤにいる兄弟たちは、ペテロが異邦人の家に行って、集まった人々に福音を宣べ伝えたことを聞くと驚き、また憤った。そして僭越としか思われないそうしたやりかたは、かえって彼自身の教えを妨げる結果になるのではないかと彼らは恐れた。彼らはその後ペテロに会ったとき、『あなたは、割礼のない人たちのところに行って、食事を共にしたということだが』と言って、彼を厳しく非難した。」（患難から栄光へ上巻 152）

c.　神からの幻に驚いた自分の経験を語った後、ペテロは何を強調しましたか。またどのように彼の兄弟たちはこの論理を受け入れましたか（使徒行伝 11:15–18）。今日、これはわたしたちに何を告げますか。

「わたしたちにとって、光を求めて祈っている魂のための神の同情とやさしい愛を考えることは、わたしたちの働きにおいて大きな励ましとなるべきである。

コルネリオのように、神がご自分の教会と接触させたいと望んでおられる人々としてわたしに表されている人々が大勢いる。彼らの同情は、主の戒めを守る民と共にある。しかし、彼らを世につないでいる絆は、彼らをかたくしばっている。彼らには自分の立場を、身分の低い人々と共にとるだけの道徳的な勇気がない。わたしたちはこれらの魂、すなわち自分たちの責任と誘惑のゆえに特別な働きを必要としている人々のために、特別な努力を払うべきである。

わたしに与えられた光から、わたしは『主はこう言われる』が今、世において感化力と権威を持っている人々に語られるべきであることを知っている。彼らは神が重要な信任を託してこられた執事たちである。もし彼らが神の召しを受け入れるならば、神は彼らをご自分のみ事業においてお用いになるのである。」（教会への証 6 巻 79, 80）

4. 機会を育む

a. 迫害によって散らされた結果、教会はどのように地中海諸国やユダヤの北にまで拡張しましたか（使徒行伝 11:19–21）。

b. 福音のための特に肥沃な地は、どの都市でしたか。そこをもっと完全に発達させるためにどの計画が立てられましたか。またなぜですか(使徒行伝 11:22–26（前句））。

「バルナバ……はシリヤの首都アンテオケの教会を助けるためにそこへつかわされた(使徒行伝 11:24)。彼はそこで働いて非常な成功をおさめた。働きが発展すると、彼はパウロに頼んで助けてもらった。このふたりの弟子たちは一緒にこの町で一年間働いて、人々に教え、キリストの教会に信者を加えた。

アンテオケには、ユダヤ人と異邦人の人口が多かった。この町は健康的な場所にあって、風景が美しく、富と文化と洗練されたものはここに集中していたので、安易で楽しい生活を愛する人たちが大勢おしよせる町だった。この町はまた、広く商業を営んでいたので、重要な土地であり、あらゆる国籍の人々がみうけられた。したがって、それはぜいたくと悪徳の都会だった。」（生き残る人々 342）

c. アンテオケにおいて、何が教会を区別しましたか（使徒行伝 11:26（後句））。

「キリストの弟子は、ここで初めてクリスチャンと呼ばれた。この名称があたえられたのは、彼らの説くところ、語るところの主題がキリストだったからである。彼らは、弟子たちとキリストとが直接にまじわっていた恵まれた期間におけるキリストの一生のできごとを、しじゅう語った。彼らは、キリストの教えと、病人をいやし、悪鬼を追い出し、死人を生命に甦らせたもうたキリストの奇跡とを倦むことなく語りつづけた。彼らは目に涙をため、くちびるをふるわせて、ゲッセマネにおけるキリストの苦悩や、キリストが裏切られ、さばかれ、処刑されたもうことや、キリストが寛容とへりくだった心をもって、敵から加えられた侮辱と責め苦に耐えたもうことや、ご自分を迫害する人々のために、神のようなあわれみの心をもって祈られたことなどを語るのだった。キリストが甦って昇天し堕落した人類のために仲保者とし天において働いておられることが、彼らにとっては何よりも楽しい話題だった。キリストについて説きキリストを通して神に祈る彼らのことを、異教徒たちがクリスチャンと呼んだのは当然である。」（同上 343）

木曜日　*6月10日*

5.　　困窮している人々のための同情

a.　アンテオケの兄弟たちは飢饉が世界中を襲うという預言を聞いたとき、どのような慈善の行動を取りましたか（使徒行伝 11:27–30）。これは各時代におけるクリスチャンたちにとって、どのように模範ですか（使徒行伝 20:35）。

「状況を通じて、神を愛し従うある人々は貧しくなった。ある人々は気にしなかった。彼らはどのように管理すべきかを知らなかった。他の人々は病気や不運を通して貧しい。原因は何であれ、彼らは困窮しており、彼らを助けることは、伝道の働きの重要な分野である。

わたしたちのすべての教会は、自分自身の貧しい人々の世話をすべきである。わたしたちの神への愛は、信仰の家の困窮者や苦しんでいる人々、その必要がわたしたちの知るところとなり、わたしたちの世話を必要としている人々に対する良い働きのうちに表現されるべきである。すべての魂は、価値ある神の貧困者に特別な同情をもって配慮するため特別な義務の下におかれている。どんな場合でも彼らが見過ごしにされてはならない。…

エルサレムに飢饉があった。そしてパウロはクリスチャンの多くが海外に散らされたこと、また残った人々は人間の同情を奪われ、宗教的な敵意にさらされているであろうことを知っていた。そこで、彼らはエルサレムにいる兄弟たちのために金銭的な支援を送るよう、諸教会に訴えた。諸教会によって積み上げられた金額は、使徒たちの期待を超えていた。キリストの愛に迫られて、信徒たちは惜しみなく与えた。そして彼らはこうして贖い主に対する自分たちの感謝と兄弟に対する自分たちの愛を表現して、喜びに満たされた。これこそ神のみ言葉に従った慈善（愛）の真の基礎である。」（教会への証 6 巻 271, 272）。

金曜日　*6月11日*

個人的な復習問題

1. **わたしはどのようにして自分の教会において、タビタの感化力のような感化力を発揮できますか。**
2. **コルネリオは、何が傑出していましたか。**
3. **わたしは実際に真理を受け入れるかもしれないどの著名な人を知っていますか。**
4. **わたしの近くに真理を必要としているアンテオケのような都市があるかもしれません。それはどこにありますか。**
5. **わたしはなぜいつもクリスチャンの慈善の重要性を考えるべきなのですか。**

正しさが立証された神の真理

「こうして、主の言はますます盛んにひろまって行った。」(使徒行伝 12:24).

「真理は神の霊感を受け、神に守られている。それはすべての反対に勝利する。」(患難から栄光へ上巻 4)

参考文献：　患難から栄光へ上巻 154–165, 178–181
　　初代文集 190–205

日曜日　*6 月 13 日*

1.　操られた統治権

a.　邪悪な思いを持った人々に先導され、ユダヤを統治する王ヘロデ・アグリッパ 1 世（キリストの時代のヘロデの甥であり、義理の兄弟）は、神のみ働きに反してどのような政治的行動を実行しましたか。それはなぜでしたか（使徒行伝 12:1–4)。

「ユダヤ人はエジプトからの救済を祝い、神のおきてに対する熱誠を装っていながら、一方ではキリストの信者を迫害し殺すことによって、そのおきてのすべての原則を犯していた。…

ヤコブを死刑にしたヘロデの行為はユダヤ人の称賛を受けたが、一部の人々はそのやりかたがあまり非公式なのを不平に思って、公然と処刑が行われれば信者や彼らに同情する人々を、もっとおびやかすことができたにちがいないと主張した。そこでヘロデはペテロを監禁しておいて、彼の死刑を見せ物にし、ユダヤ人たちをもっと満足させてやろうと思った。しかしその時エルサレムに集まっていた大ぜいの人々の前で、大使徒ペテロを引き出して処刑するのは危険ではないかというものがあった。死刑にされる彼の姿を見たら、群衆の同情心を買うかもしれないと思われたのである。

祭司や長老たちはまた、ペテロが人々に、イエスの一生とご品性を研究させずにはおかないようなあの力強い訴えを、またしかねないかもしれないと恐れた。それは祭司たちがどんなに議論をつくしても、論駁することができなかった訴えである。」(患難から栄光へ上巻 154, 155)

2. 初期教会における危機

a. なぜわたしたちは初期教会が直面した迫害に驚く必要はないのですか（ペテロ第一 4:12, 13）。

「わたしたちの偉大なる模範者、すなわち御父の栄光の輝きであられたお方が、人から蔑まれ、拒まれた。非難と虚言がこのお方につきまとった。このお方の選ばれた弟子たちは、彼らの主人の生涯と精神の生きた模範であった。彼らはむち打ちと投獄をもって尊ばれた。そして最終的に彼らの分は、自分たちの働きを自分の血で印することであった。」（教会への証 2 巻 345）

b. 教会は、ペテロの投獄にどのように応じましたか（使徒行伝 12:5）。

「ヤコブの死は信者たちの間に、大きな悲しみと驚きをひきおこした。ペテロまでも投獄されたので、教会はこぞって断食し、祈った。…

いろいろな口実にかこつけて、ペテロの死刑は過越の祭の後まで延期されていたが、そのあいだ、教会員は心を深くさぐり祈る時が与えられた。訴因からみてもペテロが助命されることはできないと彼らは感じていたからである。彼らは神の特別の助けがないかぎり、キリストの教会は破壊されるというところまできていることを知っていた。…

ついにペテロの処刑の日が決まったが、信者たちの祈りはなお天にのぼっていた。彼らが精力と同情の気持ちを注ぎつくして熱心に助けを祈り求めている時、神のみ使いたちは投獄されている使徒を見守っていた。」（患難から栄光へ上巻 155, 156）

c. ペテロの投獄の警備はどれほどきびしいものでしたか（使徒行伝 12:6）。

「ヘロデは以前に、使徒たちが獄から逃げたことがあるのをおぼえていたので、今度は用心に用心をした。どうみても救われる可能性がないように、ペテロは十六人の兵卒に夜昼寝ずの番で監視された。……獄の戸口の錠は厳重におろされ、屈強な番兵が見張りをしているために、人間がどう手をくだしても全然助けるすべも、逃げるすべもなかった。しかし人間の窮地は神の好機である。」（同上 156, 157）

3. 神が支配しておられる

a. 牢獄でペテロのためになされた奇跡を述べなさい（使徒行伝 12:7–11）。

「人間の救助手段を全然断ち切ってしまったような錠前もかんぬきもローマの番兵も、ペテロを救われる神の勝利をいっそう輝かしいものとする手段としかならなかった。……

天使が戸口のほうへ歩き出すと、日ごろおしゃべりなペテロも、この時ばかりは驚いて物も言えずにだまってついていく。彼らが番人をまたいで通り過ぎ、錠前の頑丈な門のところに来ると、門はひとりでに開いて、すぐまた閉じる。その間、内側と外側の番人は動かずにその部署についている。

次にまた内外とも見張りのついている二番目の門に来る。それははじめの門と同じように開き、蝶つがいのきしる音も鉄のかんぬきのガチャガチャいう音もしない。ふたりはそこを通り抜ける。門はまた音もなく閉じる。第三の門も同じようにして通り過ぎ、表通りに出る。一言も声はなく、足音もしない。まばゆい光につつまれた天使は音もなく前を歩いていくので、ペテロはとまどい、夢ではないかと思いながら、そのあとからついて行く。こうしてふたりが一つの通りを過ぎると、自分の任務を果たした天使は突然姿を消す。…

残酷な鉄かせをはめられてはれあがっていた〔ペテロの〕手首は自由になっていた。彼は自分の救われたのが気の迷いでも夢でも幻でもなく、よろこばしい現実であることをさとった。」（患難から栄光へ上巻 157- 159）

b. 自分がなじみのある場所にいることに気づいて、ペテロは何をしましたか（使徒行伝 12:12-17）。また罪深い王に何が起こりましたか（同 12:21–23）。

「ヘロデは自分が賛辞も尊敬も受けるに値しない者であることを知っていたが、人々の崇拝をまるで当然のことのように受けていた。……

しかし突然、恐ろしい変化が彼を襲った。彼は死人のように青ざめ、苦しみに顔がゆがんだ。大粒の汗が毛穴から流れ出て、彼は一瞬、苦痛と恐怖にすくみあがったように立っていた。それから、恐怖におびえている友人のほうへまっさおな顔を向け、うつろな絶望的な調子で叫んだ。おまえたちが神としてあがめた者が打たれて死ぬぞと。……彼は今、神が冷酷な迫害者なる自分をさばいておられるのを感じた。」（同上 161, 162）

4.　福音の秩序

a.　福音のメッセージが新しい場所へ広がるにつれ、何が必要になりましたか。またそれはなぜですか（使徒行伝 12:24, 25; 13:1–3）。

「わたしは 、教会がその責任を感じ、教師であると公言する人々の生活、資格、一般の行為などに注意深く気をつけていなければならないことを示された。もし、神が彼らを召されたこと、また、彼らがこの召しに答えなければ『わざわいである』ということについての、誤りのない証拠があるのでなければ、教会は、この人々が教師として教会の承認を受けてはいないことを、知らせる義務がある。教会には、責任が負わせられているから、教会として、この問題を解決する方法はこれ以外にはないのである。

〔福音の秩序〕は教会が信仰において一致するためには、どうしても必要なことであった。使徒時代において、教会は、偽りの教師たちによって、欺かれ惑わされる危険があったことを、わたしは見た。そこで兄弟たちは、家をよく治め、自分たちの家族の秩序を保ち、暗黒の中にいる人々に光を輝かすことができることを証拠立てた人々を選んだ。これらのことに関する神のみこころと、教会と聖霊の意向とに従って、彼らは按手を受けて聖別された。彼らは、神の任命と教会の承認とを受けて、父と子と聖霊との名によって出て行き、バプテスマを施し、神の家の儀式をつかさどった。そして、神の愛する子供たちに、主の苦しみと死とを思い起こさせるために、十字架につけられた救い主の裂かれた体と流された血を象徴したものを、聖徒たちに分け与えるのであった。

われわれは、使徒時代と同じく、今も偽教師の危険にさらされている。であるから、われわれは、群れの平和と調和と一致を保つために、少なくとも彼らがとったと同様の特別な手段をとるべきである。われわれには彼らの模範があるので、それに従わなければならない。経験に富み健全な判断力を持った兄弟たちが集まって、神の言葉と聖霊の承認とに従って、熱心な祈りと共に、神の任命を受けたことの十分な証拠を示した人々に手をおいて、彼らを全く神の働きに献げるために聖別しなければならない。この行為は、彼らが神の使命者として、人間に与えられた最も厳粛な使命を伝えるために出て行くことを、教会が承認したことを示すのである。」（初代文集 194-196）

木曜日 *6月17日*

5.　　危険にさらされている魂

a.　バルナバとサウロは次に自分たちの伝道の働きにおいて、どこへ行きましたか。また彼らはどのような障害に直面しましたか（使徒行伝 13:4–8）。

「一つの戦いもなしに、地上に神の国が建設されるのをサタンは許さない。悪の勢力は、福音宣伝のために定められた機関に絶えず戦いをいどみ、暗黒の力は、名声のある、真に高潔な人々に真理が宣べ伝えられる時、特に活発に働く。クプロの総督セルギオ・パウロが福音使命を聞いた時も同様であった。総督は、使徒たちが携えてきた使命を学ぶために彼らを迎えにやった。すると、悪の勢力が魔術師エルマを通じて働き、彼らの悪意をこめた暗示によって彼を信仰からそらし、神の目的をくじこうとした。」（患難から栄光へ上巻 179）

b.　パウロは、どのように敵が用いて働いている人を大胆に譴責しましたか。また、どのようにこうして福音のための勝利を得ましたか（使徒行伝 13:9–12）。

「魔術師はこれまで、福音の真理の数々の証拠に目をつむっていた。そこで神は正義の怒りから、彼の肉眼を閉じさせて日の光を見えなくさせられたのである。この盲目は永久的なものではなく、一時的なものであった。それは彼に悔い改めをうながし、彼がはなはだしく背いた神に、ゆるしを求めさせるためであった。彼は狼狽した。そしてキリストの教えに逆らう彼の陰険な術は、役に立たなくなった。彼が盲目となり、手探りして歩かなければならなくなったという事実は、使徒たちの行った奇跡、しかもエルマが奇術だとして公然と非難していた奇跡が、神の力によって行われたものだということをみんなに証明した。」（同上 180）

金曜日 *6月18日*

個人的な復習問題

1. **ユダヤ人とヘロデの間のような陰謀が、今日、どのように繰り返されますか。**
2. **ペテロの投獄のように不可能な障害に直面したとき、わたしたちは何ができますか。**
3. **ペテロの救出の詳細は、なぜわたしに希望をもたらすことができるのですか。**
4. **福音の教師たちのために鍵となる必要な資質は何ですか。**
5. **わたしは新しい魂のために労するとき、なぜ失望すべきではないのですか。**

わたしたちの快適な領域を越えて

「次の安息日には、ほとんど全市をあげて、神の言を聞きに集まってきた。」(使徒行伝 13:44)

「だれ一人神の御霊の動きが実現される時や、どの方向から、あるいはだれを通してそれ自体が現われるかを述べることはできない。…
一日に真理に改心する人々、すなわち五時に真理と聖霊の働きを知って認める人々が幾千といるであろう。」(ｴﾚﾝ・G・ﾎﾜｲﾄ 1888 年原稿 754, 755)

参考文献：　患難から栄光へ上巻 180–193

日曜日　*6 月 20 日*

1.　闇の中にいる人々への光

a.　キプロス島にあるパポスから (今日のトルコの南地中海岸上にある) ペルガを越えた道へ、パウロとその一団は安息日に伝道者としてどこへ行きましたか (使徒行伝 13:13, 14)。(使徒行伝 11 章にある同じ名を持つシリヤの町からははるかに遠い)。

「パウロとその一行は旅を続けて、パンフリヤのペルガに渡った。それは骨の折れる道であった。彼らは困難や不自由な目に会い、四方から危険に襲われた。彼らが通った町や都市や、物寂しい街道で、目に見える危険にも見えない危険にもとり囲まれた。しかし、パウロとバルナバは、神の救いの力に頼ることを既に学んでおり、ふたりの心は滅びゆく魂への熱烈な愛に満たされていた。いなくなった羊を捜している忠実な羊飼いのように、彼らは自分たち自身の安楽や都合などは少しも念頭に置かなかった。自己を忘れ、疲れや飢えや寒さにもひるまなかった。彼らは、おりから遠くへさまよい出た人々の救いという、たった一つの目的しか心に留めていなかった。」(患難から栄光へ上巻 181)

b.　このとき、ヨハネ・マルコには何が起こりましたか (使徒行伝 12:25; 13:5, 13)。

2. 安息日におけるユダヤ人と異邦人

a. アンテオケの会堂で、パウロにどのような機会が提供されましたか。また今日これを適用する方法から、わたしたちは何を学ぶことができますか（使徒行伝 13:15）。

「あなたは他の諸教会で語る機会を得るかもしれない。これらの機会を活用する際に、次のように言われた救い主の言葉を覚えなさい。『へびのように賢く、はとのように素直であれ』。非難の言葉を語ることによって敵の悪意を引き起こしてはならない。こうして、あなたは真理の入り口を閉ざしてしまうのである。明確に切るメッセージを担うべきである。しかし、敵意を引き起こすことに対して防御しなさい。救われるべき魂が大勢いる。すべての激しい表現を控えなさい。言葉にも行いにも救いに至る知恵を示し、あなたが接触するすべての人にキリストを表しなさい。すべての人が、あなたの足は平和の福音と人類へのみこころの備えをはいていることがわかるようにしなさい。もしわたしたちがキリストの霊を吹き込まれて働きに入るなら、すばらしい結果を見るようになる。わたしたちが義、憐れみ、また愛のうちに働きを進めるならば、わたしたちの必要時に助けがもたらされる。真理が征服し、勝利を勝ち取るようになる。」（伝道 563, 564）

「信心深い神を恐れる熱心な働き人たちは、神のうちにキリストと共に自分の命を隠しなさい。命のみ言葉を誤って解釈するよう教育されてきた正直な牧師たちのために祈り、働きなさい。」（同上 562）

「牧師や世の賢人たちは、現代の真理の光によって試されることになる。第三天使のメッセージは、彼らの前に賢明に、その真の尊厳のうちに正しくおかれるのである。」（同上 563）

b. パウロが、すべて成就した聖書に基づいて、ヘブル国家の歴史を語り、丁重にキリストのメッセージへと導き入れたとき、何が彼の結論となる訴えでしたか（使徒行伝 13:38–41）。

c. その実り多い安息日に、どのように様々な心が動かされましたか（使徒行伝 13:42, 43）。

「〔使徒行伝 13:38, 39 引用〕。パウロの語る言葉に神のみ霊が伴い、人々を感動させた。」（患難から栄光へ上巻 184）

3.　　霊的な戦い

a.　安息日に語られたユダヤ人と異邦人の両者に向けたパウロの現代の真理のメッセージの結果として、次の安息日には何が起こりましたか（使徒行伝 13:44）。この熱烈な関心のほとばしりに、どのような嫉妬深い反応が続きましたか（同 45 節）。

b.　ついに、パウロは何を宣言せざるを得なくなりましたか。またその結果は何でしたか（使徒行伝 13:46–49）。彼の目的によって、わたしたちは何を理解すべきですか。

「〔異邦人たち〕はキリストが彼らを、神の子らと認めてくださることをこの上もなくよろこび、感謝の気持ちで語られる言葉に耳を傾けた。信じた人々は福音使命を熱心に他の人々に伝えた。こうして、『主の御言はこの地方全体にひろまって行った。』…

パウロとバルナバは、ピシデヤのアンテオケにいる異邦人たちに伝道しているあいだも、みことばを聞き入れる可能性のありそうなところではどこででも、ユダヤ人のために働きかけることをやめなかった。のちにはテサロニケやコリント、エペソ、その他重要な中心地において、パウロの一行はユダヤ人と異邦人に福音宣伝を続けていった。しかし彼らはそののち、真の神とみ子についての知識をほとんど持たない、あるいは全く持たない人々のいる異教の地に、神の国を築き上げることに主力を注いだ。」（患難から栄光へ上巻 187, 188）

c.　妬み深い人々の次の戦略は何でしたか（使徒行伝 13:50）。信徒たちはどのように応じましたか。また自分たちの主人のどの言葉によって、それが可能となりましたか（使徒行伝 13:51, 52; マタイ 5:11, 12）。

「人がキリストの愛と聖潔の美しさを示すならば、彼はサタンの王国の臣下を引き離しているのである。だから悪の君はそれに抵抗して立ち上がる。キリストのみたまに満たされているすべての者には迫害と非難が待ちうけている。迫害の性質は時代によって変わるが、その本質― その根底を流れる精神― は、アベルの時以来、主の選民を殺してきたのと同じ精神である。」（祝福の山 36）

4.　　イコニオム

a.　なぜわたしたちは一人びとり、イコニオムへの伝道訪問で成し遂げられた結果によって奮起させられるのですか（使徒行伝 14:1）。

「おのおのが大教師について学び、それから、学んだことを伝えねばならない。神はご自分の使命者たちに各自の仕事をさずけておられる。賜物は種々さまざまであるが、働き人はみな聖霊のきよめの力に支配され、混ぜ合わされて調和を保つのである。彼らが救いの福音を知らせると、多くの者が神の力によって、罪を悟り、改心するであろう。人間の尽力はキリストと共に神のうちに隠され、キリストが、万人の中の最高のおかた、最もすばらしいおかたとして現れる。」（患難から栄光へ上巻 297）

b.　わたしたちはなぜイコニオムでの成功のすぐに後に続いたことによって、落胆すべきではないのですか（使徒行伝 14:2; 詩篇 69:7–9）。

「この世に生をうけた者のなかで、人の子ほど残酷な中傷を受けた者はなかった。イエスは、神の聖なる律法の原則に確固として従われたので、愚弄（ぐろう）され嘲笑を受けられた。人々は理由なしに主を憎んだ。しかし主は敵の前に冷静に立ち、非難はクリスチャンの遺産の一部であると言明しておられる。また弟子たちに、いかにして悪意の矢をふせぐべきかを教え、迫害に会っても気落ちしないようにと命じておられる。

中傷は人の評判を悪くすることはできるが、品性に汚点をつけることはできない。それは神の守りのうちにあるのである。わたしたちが罪に同意しない限り、人間でもサタンでも魂に汚点をつける力はない。神に信頼している人は、どんな苦しい試練、どんな絶望的な状況にあっても、以前自分が繁栄していて、神の光とめぐみに浴していると思えた時と全く変わらないのである。彼の言葉も、動機も、行動も、誤解され曲解される。しかし彼はもっと重大な事がらに関心をもつのでそれを気にしない。……

キリストは人に誤解され、悪い評判を立てられているすべての者を知っておられる。神の子らはどんなにそしられ、軽蔑（けいべつ）されても、冷静な忍耐と信頼をもって待つことができる。」（祝福の山 40, 41）

木曜日 *6月24日*

5.　　キリストの愛があらわされる

a.　使徒たちはどのように悪意のある噂のゆえに彼らが直面した偏見の多くを溶かし去ることができたのですか（使徒行伝 14:3, 4）。

「虚偽や誇張のある報告を流して、彼らは町全体が暴動にまで扇動されるおそれがあると、官憲の心配をひきおこした。そして、大ぜいの人々が使徒たちにひきつけられているが、それは秘密の危険な企てがあるためだなどと言い出した。

このような訴えのために、弟子たちは繰り返し官憲の前に引き出された。しかし弟子たちの答弁は明瞭で、常識的であり、また、彼らが教えていることに関する供述は非常に穏やかでわかりやすかったので、彼らの利益になるような強い感化を及ぼした。長官たちは、自分たちが聞いていた偽りの供述のために、使徒たちに偏見を持ってはいたものの、使徒たちを有罪にしようとは思わなかった。彼らは、パウロとバルナバの教えが、人々を高潔にし、法律をよく守る市民にする助けになっていることや、もし使徒たちの教えが受け入れられれば、町の道徳と秩序が更によく保たれることを、認めるほかなかった。」（患難から栄光へ上巻 191）

b.　使徒たちは、ついに何をする必要がありましたか（使徒行伝 14:5–7; マタイ 10:23）。

「使徒たちの友人たちは、信者ではなかったが、ユダヤ人たちの悪意ある計画を彼らに警告し、激情的な群衆の前に不必要に姿を現さず、生命を守ってのがれるようにと勧めた。そこでパウロとバルナバはしばらくのあいだ、信徒たちだけで働きを続けるように依頼して、ひそかにイコニオムを去った。しかし彼らはそのまま戻ってこないつもりではなかった。人々の興奮がさめたら戻ってきて、自分たちの始めた仕事を完成させようと思っていた。」（同上 193）

金曜日 *6月25日*

個人的な復習問題

1. **わたしは、ヨハネ・マルコのように、どのように困難にたじろぐよう誘惑されるかもしれませんか。**
2. **わたしはなぜパウロがアンテオケで見出したような機会を求めて祈るべきなのですか。**
3. **異邦人が福音を喜んだように、どのように多くの人はまもなく同様にしますか。**
4. **不正な中傷に直面するとき、わたしはいつも何を覚えているべきですか。**
5. **なぜ使徒たちによってあらわされた甚大な愛によって、わたしは奮起することができるのですか。**

第一安息日献金

4月3日

第一安息日献金

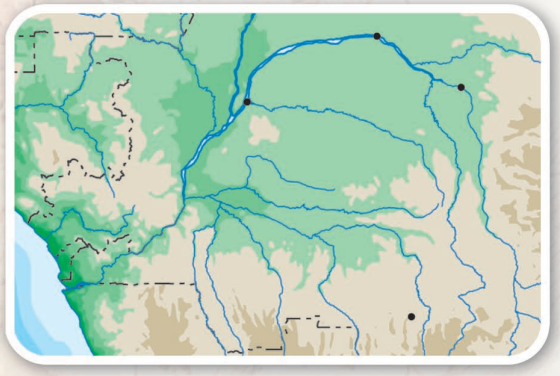
スペイン語の讃美歌集のために

（4 ページ参照）

5月1日

世界ミッションのために

（25 ページ参照）



6月5日

コンゴ民主共和国における本部のために

（51 ページ参照）